



2023

JA IBARAKIASAHIMURA
REPORT



JA茨城旭村
ディスクロージャー誌

J A 綱 領

～わたしたちJAのめざすもの～

わたしたちJAの組合員・役職員は、協同組合運動の基本的な定義・価値・原則（自主、自立、参加、民主的運営、公正、連帯等）に基づき行動します。

そして、地球的視野に立って環境変化を見通し、組織・事業・経営の革新をはかります。さらに、地域・全国・世界の協同組合の仲間と連携し、より民主的で公正な社会の実現に努めます。

このため、わたしたちは次のことを通じ、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。



わたしたちは、

- 1 地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
- 1 環境・文化・福祉への貢献を通じて、安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
- 1 JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
- 1 自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
- 1 協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

はじめに

日頃、皆様には格別のご愛顧をいただき厚く御礼申し上げます。

JA茨城旭村は、情報開示を通じて経営の透明性を高めるとともに、当JAに対するご理解を一層深めていただくために、当JAの主な事業の内容や組織概要、経営の内容などについて、利用者のためにわかり易くまとめたディスクロージャー誌「2023JA茨城旭村の現況」を作成いたしました。

皆様が当JAの事業をさらにご利用いただくための一助として、是非ご一読いただきますようお願い申し上げます。

今後とも、一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年5月

茨城旭村農業協同組合

本冊子は、農業協同組合法第54条の3に基づいて作成したディスクロージャー誌です。

JAのプロフィール

◇設 立	昭和39年7月
◇本店所在地	茨城県鉾田市造谷1379-18
◇出 資 金	8億5千円
◇総 資 産	319億円
◇単体自己資本比率	28.23%
◇組合員数	2,149人
◇役員数	28人
◇職員数	78人
◇店舗・営農センター数	5

目次

	ページ
基礎資料編	
ごあいさつ	2
経営理念	3
経営方針	3
経営管理体制	3
事業の概況(令和4年度)	4
事業活動のトピックス(令和4年度)	6
農業振興活動	8
地域貢献活動	10
リスク管理の状況	11
自己資本の状況	17
系統セーフティネット(貯金者保護の取り組み)	18
事業のご案内	19
JAの概況・組織	27
沿革・あゆみ	27
機構図	28
役員構成	29
組合員数	30
組合員組織の状況	30
地区一覧	31
店舗等のご案内	31
特定信用事業代理業者の状況	31
会計監査人の状況	31
経営資料編	
決算の状況	
貸借対照表	34
損益計算書	36
注記表	38
剰余金処分計算書	46
部門別損益計算書	47
財務諸表の正確性等にかかる確認	48
損益の状況	
最近の5事業年度の主要な経営指標	49
利益総括表	49
資金運用収支の内訳	50
受取・支払利息の増減額	50
経営諸指標	
利益率	51
貯貸率・貯証率	51
職員一人当たり及び一店舗当たりの指標	51
貸倒引当金の期末残高及び貸出金償却の額	
貸倒引当金の期末残高及び期中増減額	52
貸出金償却の額	52
各事業の実績	
信用事業	53
共済事業	58
購買事業	59
販売事業	60
保管事業	60
利用事業	61
その他の事業	61
指導事業	61

目次

ページ

自己資本の充実の状況編	
自己資本の構成に関する事項	64
自己資本の充実度に関する事項	65
信用リスクに関する事項	66
信用リスク削減手法に関する事項	70
派生商品取引及び長期決済期間取引の取引相手のリスクに関する事項	72
証券化エクスポージャーに関する事項	72
出資その他これに類するエクスポージャーに関する事項	73
リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項	75
金利リスクに関する事項	76



基礎資料編

ごあいさつ



代表理事組合長 新堀 喜一

平素より、JA茨城旭村に対してご協力、ご支援を賜りありがとうございます。

この度、当JA活動、業務などを説明した「JA茨城旭村の現況」（令和4年度ディスクロージャー誌）を作成しました。本冊子を御一読いただき、当JAに対するご理解を深めて頂ければ幸いに存じます。

令和4年度は、JA新3ヵ年計画の第1年次として「農業者の所得増大」「持続可能で安心して暮らせる豊かな地域社会の確立」「農業、地域・暮らしを支える組織・事業基盤強化」を三つの柱として事業活動を開始しました。

本年度はロシアによるウクライナへの侵攻により世界情勢が一気に不安定となり、原油価格の高騰、記録的な円安、それらに伴う物価の高騰が日本経済に大きな影響を与えました。

昨年に引き続き新型コロナウイルスへの脅威は拭いきれなかったものの、ワクチン接種の普及もあり、少しずつですが以前の事業様式を取り戻して参りました。

コロナ禍の影響を危惧されていた青果物販売につきましても、組合員の皆様の高品質生産に向けた弛まぬ努力と多大なるご理解・ご協力により、平成27年度から8年連続で100億円を超える販売実績を上げることができました。組合員及び関係機関各位には深く感謝と敬意を表する次第であります。

地域・暮らし分野においては、学校給食への食材提供等で地産地消、食育を軸とした地域貢献活動に取り組みました。組織・経営分野においては、策定した教育研修計画に基づき、各種研修や資格取得を推奨し役職員の資質向上に努め、JAを担う人材の育成に尽力いたしました。

令和5年度は、自己改革3ヵ年計画の第2年次となる年であります。第1年次から引き続き農業者の所得増大への貢献を第一に置き、確実な実践に向けた積極的な事業展開を図ります。そして組合員や地域住民のニーズに的確に応えるとともに地域農業の振興、安心・安全な食料の供給、地域社会の活性化に貢献し更なる発展に努めてまいります。

JAは組合員の皆さまに各事業を通じて総合的支援を行う役割を担うため、役職員一同力を合わせ、更なるJA自己改革に取り組んでいく所存です。今後とも組合員各位のなお一層のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

令和5年5月
茨城旭村農業協同組合
代表理事組合長 新堀 喜一

経営理念

JA茨城旭村は、協同組合精神に基づき「JA綱領」を経営理念とします。

そして、わたしたちJAの組合員・役職員は次のことを通じて、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を誠実に果たします。

- 1.地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ります。
- 2.環境・文化・福祉への貢献を通じて安心して暮らせる豊かな地域社会を築きます。
- 3.JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現します。
- 4.自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めます。
- 5.協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求します。

経営方針

当JAは、第29回茨城県JA大会において決議された3つの柱（「農業」「地域・暮らし」「組織・経営」）に基づき、新3カ年計画兼自己改革工程表を策定しました。

「農業」では農業者の所得増大への貢献、「地域・暮らし」では持続可能で安心して暮らせる豊かな地域社会の確立、「組織・経営」では農業、地域・暮らしを支える組織・事業基盤強化の実現に取り組めます。

今後とも地域になくなくてはならないJAであり続けるため、自己改革の実践を支える持続可能な経営基盤の確立・強化とともに、組合員との対話を通じ総合事業を基本として「不断の自己改革」に取り組んでまいります。

経営管理体制

◇経営執行体制

当JAは農業者により組織された協同組合であり、正組合員の代表者で構成される「総代会」の決定事項を踏まえ、総代会において選出された理事により構成される「理事会」が業務執行を行っています。また、総代会で選任された監事が理事会の決定や理事の業務執行全般の監査を行っています。

また、信用事業については専任担当の理事を置くとともに、農業協同組合法第30条に規定する員外監事を設置し、ガバナンスの強化を図っています。

事業の概況(令和4年度)

◇ 経営環境と令和4年度の業況・事業実績・損益状況の概要

新3ヶ年計画1年次は、JA自己改革の基本目標である「農業者の所得増大への貢献」「持続可能で安心して暮らせる豊かな地域社会の確立」「JA農業、地域・くらしを支える組織・事業基盤強化」を3つの柱とする自己改革の実践に取り組んできました。

新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、ロシアによるウクライナ侵攻や急激な円高などによる生産資材価格の高騰・自然災害の甚大化など農業は危機的な状況ではありませんが、販売品販売高は、青果物全体で113.6%と前年度を上回ることができました。直売所の委託販売は前年対比106.9%、買取販売は112.8%となりました。畜産・米麦などを含めた販売事業全体では前年対比107.2%、金額で8億9,600万円増加し、133億6,616万円となりました。

購買事業は、土壌診断の重要性や最新営農情報を提供して営農を軸とした指導購買を実践しました。肥料については、作物別に土壌診断を実施して適正施肥を奨励しました。また、世界最大の原料輸出国である中国の輸出制限・製造コスト上昇による強い値上げ要請がきており、当JAでは「特別対策」として、予約値引きを行い値上げ幅の圧縮に努めました。農薬については、近年難防除病害虫が多発しており、早期防除対策や新規農薬を導入してのローテーション防除に取り組みました。また、コスト削減として最新情報の提供、予約購買の推進、系統独自品、大型規格の積極的な推進と現状に即した価格対応を進めてきました。購買事業全体では前年対比で102.3%、金額5,086万円増加し、22億1,158万円の実績となりました。

信用事業は2022～2024年度の3か年中期戦略に基づき、収益改善に取組み、農業のメインバンクとしての機能を発揮していくことを目指して、貸出金の伸長・総合的な金融取引(メイン化)の拡大・個人貯金の伸長・年金口座の獲得等の事業推進に取り組みました。貸出金では、住宅資金の伸びと地方公共団体への貸付を獲得できたことから、年度末計画を上回り、前年比105.6% 48億93百万円の残高となりました。総貯金は、販売代金の好調な伸びに支えられ個人貯金が順調に推移したため、年度末計画を上回り、前年比106.5% 275億24百万円となりました。

共済事業では、認知症共済・生活障害共済・特定重度疾病共済が加わりましたが、少子高齢化の影響もあり、長期保有高は前年比21億1,000百万円の減少となりました。短期共済契約高については、自賠責共済は1,431台(前年比92.5%)と減少しましたが、火災共済で732件(前年比105.9%)、自動車共済で4,088台(前年比101.9%)と前年を上回る実績を挙げることができました。

この結果、事業利益4億1,878万円、経常利益4億3,608万円、当期剰余金3億2,523万円となりました。

◇ 決算概況をふまえて対処すべき組合の課題

新型コロナウイルス感染症の終息が依然見えず、またロシアによるウクライナ侵攻で農業資材(生産原価)等の価格高騰が続く中、JA自己改革の基本目標「農業者の所得増大への貢献」に向け、JA大会の柱である「販売力強化・生産力強化・生産コスト削減」を軸に、取り組みを展開してきましたが、生産原価等の高騰は農業経営を行う上で、より厳しい状況となっております。

経済部門が連携し、品質及び生産性の向上を図り、単位収益を向上させることによりトータルコスト率を抑え、生産者の手取り金額拡大を図ることが当JAの重要目標です。今のまま生産原価等高騰の状況が進めば、コスト面は圧迫され農家経営はより厳しさを増し、将来の担い手農家育成や経営継承者等にも影響を及ぼす可能性があります。将来予測の難しい世界情勢に関連する問題でありますので、今回のような農業経営に直接的に影響のある問題が起きたときに備え将来を見据えた財源確保を行っていきます。

また、近年、準組合員数も増加傾向にあります。当組合における準組合員は、総合事業と共同事業への参加を通じて「農業や地域経済の発展を支える農業者と共に支えるパートナー」であり、地域農業に関しては「農業振興のサポーター」として正組合員と共に農業の発展と豊かな地域づくりを目指していかねばなりません。

さらに健全な組織を目指すため、法令のみならず社会規範にも則したコンプライアンスの管理を徹底し不祥事の未然防止に努めるとともに反社会勢力等の遮断に適切に対応できる職場風土を構築します。

◇ 令和4年度決算の概要と主要業務の概況

資産・負債の状況

総資産の残高は、319億2,990万円で前年に比べ、額で19億2,214万円増加した。調達面では、貯金が16億8,344万円増加、運用面では貸出金が2億6,149万円の増加であった。

損益の状況

共済事業、保管事業、利用事業の総利益は昨年を下回ったが、それ以外の事業の総利益は前年を上回る実績となった。特に購買事業及び販売事業総利益は合算で昨年よりも3,600万円以上進捗し、事業総利益は4,785万円の増加となり当期剰余金は3億2,523万円となった。

主要業務別実績

貯金の推移

百万円



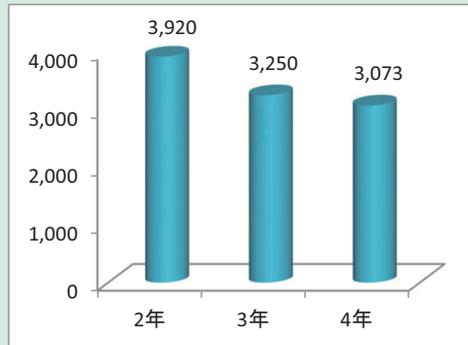
貸出金の推移

百万円



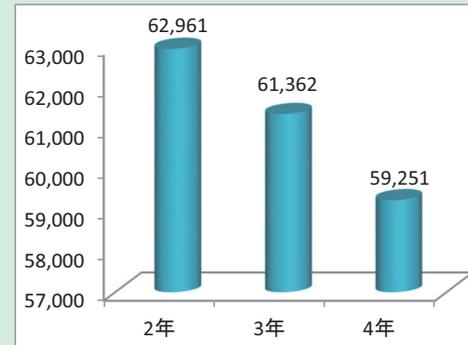
長期共済新契約高の推移

百万円



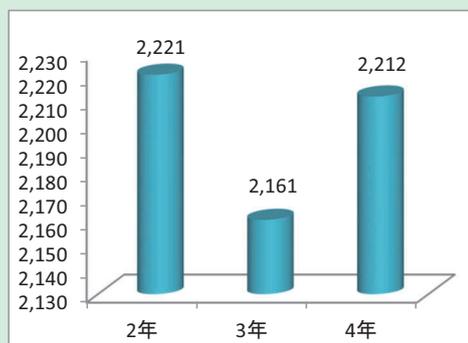
長期共済保有契約高の推移

百万円



購買品供給高の推移

百万円



販売品販売高の推移

百万円



事業活動のトピックス(令和4年度)

2022

◇ 2月

共済推進大会
イチゴ中間検討会
甘藷キュアリング貯蔵施設建設委員会
蔬菜部会生産者大会



◇ 3月

小学校新入児童交通安全帽子贈呈式
甘藷キュアリング貯蔵施設竣工式

◇ 4月

総代会



◇ 5月

人参部会生産者大会
首相官邸表敬訪問
県知事表敬訪問(メロン部会)
メロン部会中間検討会
イチゴ部会生産者大会

◇ 6月

学校給食へメロンの提供
鹿行地区青年部PR市(水戸協同病院)
蔬菜部会販売対策会議
甘藷部会生産者大会



◇ 7月

農機ダイナミックフェア2022
JAグループ茨城BCP統一訓練



◇ 8月

資材高騰対策に係る緊急要請書提出

ミニトマト目揃え会

大玉トマト目揃え会

◇ 9月

甘藷目揃え会

どうでしょうキャラバン2022出店

抑制トマト中間検討会

◇ 10月

JA常勤役員との意見交換会

(青年部)

グラウンドゴルフ大会

福島市場祭り出店(甘藷部会)

臨時総代会

(青果物管理センター等機器類の更新について)



◇ 11月

エルソルメロン栽培講習会

イチゴ目揃え会



◇ 12月

農機展示会

トマト部会生産者大会

アールスメロン部会生産者大会

2023

◇ 1月

ほこたにぎわい祭り出店(青年部)

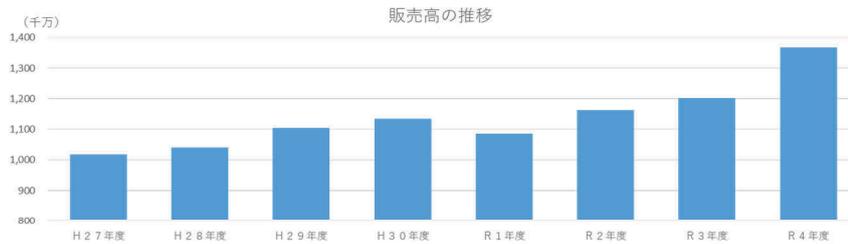
農業振興活動

農業

農業者の所得増大

取組 1 販売高100億円 8年連続維持 営農事業拡充に尽力

平成27年度に初めて販売高100億円を突破して以来、令和4年度までの8年間、100億円という高水準を維持してきました。令和4年度は前年に比べると約107.2%の実績となりました。いまだ新型コロナウイルス感染拡大の影響下においても営農事業に力を入れて取り組んできた結果です。



取組 2 甘藷キュアリング貯蔵施設建設で取扱量増加

令和4年3月に竣工した甘藷キュアリング貯蔵施設は建物面積785.2㎡の甘藷用のキュアリング処理および貯蔵のための施設です。

当施設にはキュアリング処理のできる区画2室を含め合計6室からなる貯蔵室があり、全コンテナ貯蔵数は20,736コンテナ(414.72t)の甘藷を貯蔵できます。

この施設の稼働により令和4年度の甘藷の国外輸出量は昨年度よりも4t増加し、その他、ブランド甘藷「旭甘十郎」などの取扱量も増加しました。



取組 3 生産資材コストの低減 価格高騰対策も実施

甘藷の肥料を銘柄選定し集約したことによる値引きや、肥料の満車直送による値引き、農業大型規格品導入による値引きなどに取り組みました。

また、ロシア・ウクライナ情勢を発端とした原油価格・物価高騰の影響を農業生産資材も大きく受けたことを鑑みて、JAほことと合同で銚田市長に対し、「農業生産資材価格高騰対策にかかる緊急要請」を行ったほか、JA独自でも価格高騰に対しての値引き対策を行いました。



地域・暮らし

持続可能で安心して暮らせる豊かな地域社会の確立

取組 1 地域住民とのつながりを強化

次世代の担い手となる子供たちの安全を守るため、管内小学校に入学する全ての
新入学生へ交通安全帽子を贈呈しました。

また、地域との絆づくりを行い、JA事業への理解を深める取組として年金友の
会会員によるグラウンドゴルフ大会を開催しました。



取組 2 行政と連携した地産地消活動

6月6日の「銚田市メロンの日」に学校給食へメロンを提供し、子供たちにも
地元特産物の美味しさ・素晴らしさを理解してもらえよう取り組みました。

また、銚田市立旭南小学校で行われた「南っ子祭り」に焼き芋を無償提供しま
した。



組織・経営

農業、地域・暮らしを支える組織・事業基盤強化

取組 1 人材確保に向け採用活動のデジタル化

人材を広く募集するために令和4年度の採用職員募集より学生のための求人サイトを運
営するマイナビ株式会社と求人掲載契約をし、全国の学生へ求人情報を発信しておりま
す。

また、採用のための試験も全国中央会が行っているWEBでの統一試験を採用し、試験
日時や期間にとらわれない自由度の高い方法での試験を行っています。



取組 2 組合員への利益還元 安定経営で配当金を確保

JAでは、財務3指標を達成するためにPDCAサイクル
の徹底、決算予測（分析）の高精度化、コストオペレーショ
ンを徹底することで経営を安定化させ、組合員への利益還元
として配当金を支払っています。配当金は出資された金額に
応じて支払う出資配当金とJA事業の利用料に応じて支払う
事業分量配当金の2種類があります。

	R02年度	R03年度	R04年度
出資配当金額	16,899,932円 (2.1%)	17,461,172円 (2.1%)	17,679,483円 (2.1%)
事業分量 配当金額	24,591,386円	27,906,856円	31,610,860円

地域貢献活動

◇ 社会貢献活動（社会的責任）

地域農業を中心として、また地域のメインバンクとして組合員・利用者及び地域住民を営農、金融面で支えるとともに他部門と密接に連携して「指導・相談」等を行っています。

また、JAの総合事業を通じて各種金融機能・サービス等を提供するだけでなく、地域の協同組合として、農業や助け合いを通じた社会貢献に努めています。

◇ 地域貢献活動

□地域からの資金調達状況

当農協では、お客様のニーズにお応えするため、懸賞品付定期貯金や公的年金の受取の方を対象とした「友の会」活動など特徴ある商品やサービスをご用意しております。今後もなお一層の充実に向けて努力してまいります。

貯金残高	27,524,418,749 円
当座性	12,308,291,906 円
定期性	15,216,126,843 円

□地域への資金供給の状況

お客様からお預かりした大切な貯金を、資金を必要とされている組合員、地域にお住まいの方や事業者の方へ適正に供給し、農業や地域経済の活性化に寄与しています。

貸出金残高 4,892,831,922円

□文化的・社会的貢献に関する事項

1.「地域との共生を基本理念に小さな活動から」を合言葉に、福祉、スポーツや地域活動を通じて文化的・社会的貢献活動を展開しています。

2.利用者ネットワークとして、友の会や部会を設置し、様々な活動を展開しています。

3.広報誌やホームページを通じて情報提供やご意見を承っておりますのでご利用ください。

ホームページアドレス <https://www.ja-ibarakiasahi.or.jp>

リスク管理の状況

◇ リスク管理体制

組合員・利用者の皆さまに安心してJAをご利用いただくためには、より健全性の高い経営を確保し、信頼性を高めていくことが重要です。

このため、有効な内部管理態勢を構築し、直面する様々なリスクに適切に対応すべく、認識すべきリスクの種類や管理体制と仕組みなど、リスク管理の基本的な体系を整備しています。

また、収益とリスクの適切な管理、適切な資産自己査定の実施などを通じてリスク管理体制の充実・強化に努めています。

① 信用リスク管理

信用リスクとは、信用供与先の財務状況の悪化等により、資産(オフ・バランスを含む。)の価値が減少ないし消失し、金融機関が損失を被るリスクのことです。当JAは、個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。

また、通常の貸出取引については、融資審査部署を設置し与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。

貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。

また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。

② 市場リスク管理

市場リスクとは、金利、為替、株式等の様々な市場のリスク・ファクターの変動により、資産・負債(オフ・バランスを含む。)の価値が変動し、損失を被るリスク、資産・負債から生み出される収益が変動し損失を被るリスクのことです。主に金利リスク、価格変動リスクなどをいいます。

金利リスクとは、金利変動に伴い損失を被るリスクで、資産と負債の金利又は期間のミスマッチが存在している中で金利が変動することにより、利益が低下ないし損失を被るリスクをいいます。また、価格変動リスクとは、有価証券等の価格の変動に伴って資産価格が減少するリスクのことです。

当JAでは、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。

とりわけ、有価証券運用については、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及び当JAの保有有価証券ポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会において運用方針を定めるとともに、経営層で構成するALM委員会を定期的開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。

運用部門は、理事会で決定した運用方針及びALM委員会で決定された方針などに基づき、有価証券の売買やリスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引についてはリスク管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

③ 流動性リスク管理

流動性リスクとは、運用と調達 mismatches や予期せぬ資金の流出により、必要な資金確保が困難になる、又は通常よりも著しく高い金利での資金調達を余儀なくされることにより損失を被るリスク(資金繰りリスク)及び市場の混乱等により市場において取引ができないため、通常よりも著しく不利な価格での取引を余儀なくされることにより損失を被るリスク(市場流動性リスク)のことです。

当JAでは、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置づけ、商品ごとに異なる流動性(換金性)を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。

④ オペレーショナル・リスク管理

オペレーショナル・リスクとは、業務の過程、役職員の活動もしくは、システムが不適切であること又は外生的な事象による損失を被るリスクのことです。

当JAでは、収益発生を意図し能動的な要因により発生する信用リスクや市場リスク及び流動性リスク以外のリスクで、受動的に発生する事務、システム、法務などについて事務処理や業務運営の過程において、損失を被るリスクと定義しています。事務リスク、システムリスクなどについて、事務手続きにかかる各種規程を理事会で定め、その有効性について内部監査や監事監査の対象とするとともに、事故・事務ミスが発生した場合は速やかに状況を把握して理事会に報告する体制を整備して、リスク発生後の対応及び改善が迅速・正確に反映ができるよう努めています。

⑤ 事務リスク管理

事務リスクとは、役職員が正確な事務を怠る、あるいは事故・不正等を起こすことにより金融機関が損失を被るリスクのことです。

当JAでは、業務の多様化や事務量の増加に対応して、正確な事務処理を行うため事務マニュアルを整備するとともに、自主検査・自店検査を実施し事務リスクの削減に努めています。また、事故・事務ミスが発生した場合には、発生状況を把握し改善を図るとともに、内部監査により重点的なチェックを行い、再発防止策を実施しています。

⑥ システムリスク管理

システムリスクとは、コンピュータシステムのダウン又は誤作動等、システムの不備に伴い金融機関が損失を被るリスク、さらにコンピュータが不正に使用されることにより金融機関が損失を被るリスクのことです。

当JAでは、コンピュータシステムの安定稼働のため、安全かつ円滑な運用に努めるとともに、システムの万一の災害・障害等に備え、「緊急時対応マニュアル」を策定しています。

◇ マネー・ローンダリング及び テロ資金供与リスク管理、反社会的勢力への対応

〔マネー・ローンダリング等および反社会的勢力等への対応に関する基本方針〕

茨城旭村農業協同組合（以下「当組合」といいます。）は、事業を行うにつきまして、マネー・ローンダリングおよびテロ資金供与等の金融サービスの濫用（以下、「マネー・ローンダリング等」という。）の防止に取り組みます。

あわせて、平成19年6月19日犯罪対策閣僚会議幹事会申合わせにおいて決定された「企業が反社会的勢力による被害を防止するための指針（以下、「政府指針」という。）」等を遵守し、反社会的勢力等に対して断固とした姿勢で臨むことをここに宣言します。

また、顧客に組織犯罪等による被害が発生した場合には、被害者救済など必要な対応を講じます。

（運営等）

当組合は、マネー・ローンダリング等防止および反社会的勢力等との取引排除の重要性を認識し、適用となる法令等や政府指針を遵守するため、当組合の特性に応じた態勢を整備します。

また、適切な措置を適時に実施できるよう、役職員に指導・研修を実施し、マネー・ローンダリング等防止および反社会的勢力等との取引排除について周知徹底を図ります。

（マネー・ローンダリング等の防止）

当組合は、実効的なマネー・ローンダリング等防止を実施するため、自らが直面しているリスクを適時・適切に特定・評価し、リスクに見合った低減措置を講じます。

（反社会的勢力等との決別）

当組合は、反社会的勢力等に対して取引関係を含めて、排除の姿勢をもって対応し、反社会的勢力等による不当要求を拒絶します。

（組織的な対応）

当組合は、反社会的勢力等に対しては、組織的な対応を行い、職員の安全確保を最優先に行動します。

（外部専門機関との連携）

当組合は、警察、財団法人暴力追放推進センター、弁護士など、反社会的勢力等を排除するための各種活動を行っている外部専門機関等と密接な連携をもって、反社会的勢力等と対決します。

◇ 法令遵守体制

〔コンプライアンス基本方針〕

【前文】

- JA茨城旭村は、相互扶助の理念に基づき、農産物の供給源としての役割や、金融機関としての役割など、協同組合組織として組合員や地域社会に必要とされる事業を通じて、その生活の向上や地域社会の発展に貢献するという基本的使命・社会的責任を担っています。
- JA茨城旭村が、この基本的使命・社会的責任の実現に向けて、以下のコンプライアンス基本方針に基づく事業を展開していきます。

【基本方針】

- 当組合は、JAの担う基本的使命・社会的責任を果たし、組合員や利用者の多様なニーズに応える事業を展開し、社会の信頼を確立するため、当組合の役職員一人一人が、高い倫理観と強い責任感を持って、日常の業務を遂行する。
- 当組合は、創意と工夫を活かした質の高いサービスと、組合員の目線に立った事業活動により、地域社会の発展に貢献する。
- 当組合は、関連する法令等を厳格に遵守し、社会的規範に基づき、誠実かつ公正な業務運営を遂行する。
- 経営情報の積極的かつ公正な開示をはじめ、広く地域社会とのコミュニケーションの充実を図るとともに、透明性の高い組織風土を構築し、信頼の確立を図る。
- 社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対しては、確固たる信念をもって、排除の姿勢を堅持する。

〔コンプライアンス運営態勢〕

コンプライアンス態勢全般にかかる検討・審議を行うため、代表理事組合長を委員長とするコンプライアンス委員会を設置するとともに、コンプライアンスの推進を行うため、各部署がコンプライアンス主管部署となっています。

基本姿勢及び遵守すべき事項を記載した手引書「コンプライアンス・マニュアル」を策定し、研修会を行い全役職員に徹底しています。

毎年度、コンプライアンス・プログラムを策定し、実効ある推進に努めるとともに、統括部署を設置し、その進捗管理を行っています。

また、組合員・利用者の皆さまの声を真摯に捉え、前向きに事業に反映するため、苦情・相談等の専門窓口を設置しています。

◇ 金融ADR体制への対応

① 苦情処理措置の内容

当JAでは、苦情処理措置として、業務運営体制・内部規則等を整備のうえ、その内容をホームページ・チラシ等で公表するとともに、JAバンク相談所やJA共済連とも連携し、迅速かつ適切な対応に努め、苦情等の解決を図ります。

当JAの苦情等受付窓口

電話：0291-37-0111

受付時間：午前9時～午後5時（金融機関の休業日を除く）

② 紛争解決措置の内容

当JAでは、紛争解決措置として、次の外部機関を利用しています。

・信用事業

東京弁護士会紛争解決センター

電話：03-3581-0031

受付時間：午前9時30分～午後4時（正午～午後1時を除く）

月曜日～金曜日（祝日・年末年始を除く）

第一東京弁護士会仲裁センター

電話：03-3595-8588

受付時間：午前10時～午後4時（正午～午後1時を除く）

月曜日～金曜日（祝祭日・年末年始を除く）

第二東京弁護士会仲裁センター

電話：03-3581-2249

受付時間：午前9時30分～午後5時（正午～午後1時を除く）

月曜日～金曜日（祝祭日・年末年始を除く）

①の窓口または一般社団法人JAバンク相談所（電話：03-6837-1359・受付時間：午前9時～午後5時（祝日及び金融機関の休業日を除く））にお申し出ください。

なお、上記弁護士会には、直接紛争解決をお申し立ていただくことも可能です。また、東京弁護士会、第一東京弁護士会、第二東京弁護士会（以下「東京三弁護士会」という）の仲裁センター等では、東京以外の地域の方々からの申立について、当事者の希望を聞いたうえで、アクセスに便利な地域で手続を進める方法があります。

①現地調停：東京の弁護士会のあっせん人と東京以外の弁護士会のあっせん人が、弁護士会所在地と東京を結ぶテレビ会議システム等により、共同して解決に当たります。

②移管調停：東京以外の弁護士会の仲裁センター等に事件を移管します。

※ 現地調停、移管調停は全国の全ての弁護士会で行える訳ではありません。具体的内容は一般社団法人JAバンク相談所または東京三弁護士会仲裁センター等にお問合せください。

・共済事業

（一社）日本共済協会 共済相談所（電話：03-5368-5757）

<https://www.jcia.or.jp/advisory/index.html>

（一財）自賠償保険・共済紛争処理機構

<http://www.jibai-adr.or.jp/>

（公財）日弁連交通事故相談センター

<https://n-tacc.or.jp/>

（公財）交通事故紛争処理センター

<https://www.jcstad.or.jp/>

日本弁護士連合会 弁護士費用保険ADR

（<https://www.nichibenren.or.jp/activity/resolution/lac.html>）

各機関の連絡先（住所・電話番号）につきましては、上記ホームページをご覧ください。①の窓口にお問い合わせ下さい。

◇ 内部監査体制

当JAでは、内部監査部門を被監査部門から独立して設置し、経営全般にわたる管理及び各部門の業務の遂行状況を、内部管理態勢の適切性と有効性の観点から検証・評価し、改善事項の勧告などを通じて業務運営の適切性の維持・改善に努めています。

また、内部監査は、JAの本店・各センターのすべてを対象とし、中期及び年度の内部監査計画に基づき実施しています。監査結果は代表理事組合長及び監事に報告したのち被監査部門に通知され、定期的に被監査部門の改善取り組み状況をフォローアップしています。また、監査結果の概要を定期的に理事会に報告することとしていますが、特に重要な事項については、直ちに理事会、代表理事組合長、監事に報告し、速やかに適切な措置を講じています。

自己資本の状況

◇自己資本比率の状況

当JAでは、多様化するリスクに対応するとともに、組合員や利用者のニーズに応えるため、財務基盤の強化を経営の重要課題として取り組んでいます。内部留保に努めるとともに、不良債権処理及び業務の効率化等に取り組んだ結果、令和5年1月末における自己資本比率は、28.23%となりました。

◇経営の健全性の確保と自己資本の充実

当JAの自己資本は、組合員の普通出資によっています。

○ 普通出資による資本調達額

項目	内容
発行主体	茨城旭村農業協同組合
資本調達手段の種類	普通出資
コア資本に係る基礎項目に算入した額	3,358,247,304円(前年度 3,070,376,407円)

当JAは、「自己資本比率算出要領」を制定し、適正なプロセスにより正確な自己資本比率を算出して、当JAが抱える信用リスクやオペレーショナル・リスクの管理及びこれらのリスクに対応した十分な自己資本の維持を図るとともに、内部留保の積み増しにより自己資本の充実に努めています。

系統セーフティネット(貯金者保護の取り組み)

当JAの貯金は、JAバンク独自の制度である「破綻未然防止システム」と公的制度である「貯金保険制度(農水産業協同組合貯金保険制度)」との2重のセーフティネットで守られています。

◇「JAバンクシステム」の仕組み

JAバンクは、全国のJA・信連・農林中央金庫(JAバンク会員)で構成するグループの名称です。組合員・利用者の皆さまに、便利で安心な金融機関としてご利用いただけるよう、JAバンク会員の総力を結集し、実質的にひとつの金融機関として活動する「JAバンクシステム」を運営しています。

「JAバンクシステム」は「破綻未然防止システム」と「一体的事業推進」を2つの柱としています。

◇「破綻未然防止システム」の機能

「破綻未然防止システム」は、JAバンク全体としての信頼性を確保するための仕組みです。再編強化法(農林中央金庫及び特定農業協同組合等による信用事業の再編及び強化に関する法律)に基づき、「JAバンク基本方針」を定め、JAの経営上の問題点の早期発見・早期改善のため、国の基準よりもさらに厳しいJAバンク独自の自主ルール基準(達成すべき自己資本比率の水準、体制整備など)を設定しています。

また、JAバンク全体で個々のJAの経営状況をチェックすることにより適切な経営改善指導を行います。

◇「一体的な事業推進」の実施

良質で高度な金融サービスを提供するため、JAバンクとして商品開発力・提案力の強化、共同運営システムの利用、全国統一のJAバンクブランドの確立等の一体的な事業推進の取り組みをしています。

◇貯金保険制度

貯金保険制度とは、農水産業協同組合が貯金などの払い戻しができなくなった場合などに、貯金者を保護し、また資金決済の確保を図ることによって、信用秩序の維持に資することを目的とする制度で、銀行、信金、信組、労金などが加入する「預金保険制度」と同様な制度です。

事業のご案内(信用事業)

信用事業は、貯金、融資、為替などいわゆる銀行業務といわれる内容の業務をおこなっています。

この信用事業は、JA・信連・農林中金という3段階の組織が有機的に結びつき、「JAバンク」として大きな力を発揮しています。

また、万が一JAの経営基盤が弱くなった場合でも、JA系統金融は独自の信用事業相互援助制度や貯金保険機構を通じ、貯金者の皆様のご迷惑を最大限回避する仕組みが整っています。



◇ 貯金業務

組合員の方はもちろん、地域住民の皆さまや事業主の皆さまからの貯金をお預かりしています。普通貯金、当座貯金、定期貯金、定期積金、総合口座などの各種貯金を目的・期間・金額にあわせてご利用いただいています。

また、公共料金、都道府県税、市町村税、各種料金のお支払い、年金のお受け取り、給与振込等もご利用いただけます。

□当組合の主な取扱商品

(令和5年1月31日)

種類	特色	預入期間	預入単位等
総合口座	普通貯金に定期貯金をセットすることで自動融資機能を持たせた便利な通帳です。	期間と出し入れの自由な口座	ご融資利率 セットされた定期貯金の利率 プラス0.5%
普通貯金	取引先の必要に応じて自由に預け入れ、払い戻しが反復継続できる要求払い貯金です。		最低預入金額 1円 付利最低金額 1000円
納税準備貯金	貯金の奨励と租税の円滑な納付をはかるため、貯金者が租税の納付のための資金を準備する貯金です。		最低預入金額 1円 付利最低金額 1000円
貯蓄貯金	性質は普通貯金と同様ですが、決済性及び払い出し回数などの制限を持たせた自由金利型の要求払い貯金です。		最低預入金額 1円 付利最低金額 1000円
定期貯金	金銭の消費寄託契約に基づく期限付き指名債権であり、あらかじめ期間を定める期限付き貯金です。		大口定期 1千万円以上 スーパー定期 1円以上 1千万円未満
定期積金	契約者が一定の期間、定期的に掛け込むことを条件に一定額の給付を約することによって成立する契約です。	6～60回	原則として1万円以上

(注) 金利はいずれも店頭に表示されています。

ご貯金やご融資などの商品やサービスにつきましては、それぞれの商品やサービス内容についてお問い合わせいただくなど、ご確認のうえご利用ください。

◇ 融資業務

農業専門金融機関として、農業の振興を図るための農業関連資金はもとより、組合員の皆さまの生活を豊かにするための生活改善資金等を融資しています。

また、地域金融機関の役割として、地域住民の皆さまの暮らしに必要な資金や、地方公共団体、農業関連産業・地元企業等、農業以外の事業へも必要な資金を貸し出し、農業の振興はもとより、地域社会の発展のために貢献しています。

□当組合の主な取扱商品

(令和5年1月31日現在)

種 類	お使いみち	ご利用 いただける方	ご利用方法				
			ご利用金額	ご利用期間	返済方法	保証	担保
新認定農業者 育成特別資金	農業機械 設備等	貸付時の年齢が18歳以上 75歳未満	500万円以内	5年以内	元金均等返済	機関保証	必要に応じて不動産
住宅ローン	新築、増改築 土地の購入	18歳以上で最終返済時 満66歳未満の組合員	10,000万円以内	3年以上 40年以内	元利均等返済	機関保証	土地・建物
教育ローン	教育に必要な 資金	18歳以上で最終返済時 満71歳未満の組合員	1,000万円以内	15年以内	元利均等返済	機関保証	不要
自動車ローン	自動車購入等	18歳以上で最終返済時 満80歳未満の組合員	1,000万円以内	6ヶ月以上 10年以内	元利均等返済	機関保証	不要
カードローン	生活に必要な 資金	前年税込年収150万円以上で 18歳以上70歳未満の組合員	50万円以内	1年自動更新	任意返済	機関保証	不要

(注) 上記の他にもお客様の要望にお応えできる各種ローンをご用意しております。また、ローンのご利用にあたりましては、ご契約上の規定・ご返済方法・ご利用限度額・現在のご利用額・金利変動ルール等十分ご留意の上ご利用ください。(詳しくは窓口にてご確認ください。)

◇ 為替業務

全国のJA・信連・農林中金の店舗を始め、全国の銀行や信用金庫などの各店舗と為替網で結び、当JAの窓口を通して全国のどこの金融機関へでも振込・送金や手形・小切手等の取立が安全・確実・迅速にできます。

◇ その他の業務及びサービス

当JAでは、コンピュータ・オンラインシステムを利用して、各種自動受取、各種自動支払や事業主のみなさまのための給与振込サービス、自動集金サービスなど取り扱っています。

また、全国のJAでの貯金の出し入れや銀行、信用金庫、コンビニエンス・ストアなどでも現金引き出しのできるキャッシュサービスなど、いろいろなサービスに努めています。

◇ キャッシュサービスコーナーの充実

設置台数 3台(令和5年1月31日現在)

オンラインサービスの営業時間

○平日 8:45～19:00

○土・日、祝日 8:45～17:00

(※サングリーン旭店内に設置していますATMにつきましては、平日はサングリーン旭の営業日および営業時間となっています)

信用事業手数料一覧

※記載の手数料は一部抜粋となります。その他の手数料に関してはホームページ等をご参照ください。

■窓口取引による手数料

		3万円未満 (1件につき)	3万円以上 (1件につき)	
送金手数料	系統金融機関あて	440円	440円	
	他金融機関あて(送金小切手)	660円	660円	
振込手数料	同一店内あて	110円	330円	
	系統金融機関あて	220円	440円	
	他金融機関あて	電信扱	550円	770円
		文書扱	440円	660円
電子交換所取立			1,100円	
個別取立			1,100円	
その他諸手数料	送金・振込の組戻料	1件につき	660円	
	不渡手形返却料	1通につき	1,100円	
	取立手形組戻料	1通につき	1,100円	
	取立手形店頭呈示料	1通につき	1,100円	
	ただし、660円を超える取立費用を要する場合は、その実費とする。			
	離島回金料		無料	

(消費税込)

注1) 代金取立手数料の同一交換取立手数料は、担保、割引、商業手形に限り適用します。

注2) 地域農業や教育・福祉の発展に寄与する法人・団体等の場合、当JAの規程により上記金額の免除又は軽減措置があります。

■自動化機器(ATM)取引による手数料

【通常時間】 平日 8:45～18:00
土曜 8:45～14:00

	自農協ネット (自店含む)	県内ネット	全国ネット	業態間ネット
平日	無料	無料	無料	110円
土曜	無料	無料	無料	110円
日曜	無料	無料	無料	110円
祝(休)日	無料	無料	無料	110円

(消費税込)

注1) 三菱東京UFJ銀行は業態間ネットと同額の110円となります。

注2) 業態間ネットのうちJFマリンバンクの場合は、無料となります。

【延長時間】 平日 18:00～19:00 日曜 8:45～17:00
土曜 14:00～17:00 祝(休)日 8:45～17:00

	自農協ネット (自店含む)	県内ネット	全国ネット	業態間ネット
平日	無料	無料	無料	220円
土曜	無料	無料	無料	220円
日曜	無料	無料	無料	220円
祝(休)日	無料	無料	無料	220円

(消費税込)

注1) 三菱東京UFJ銀行は業態間ネットと同額の220円となります。

注2) 業態間ネットのうちJFマリンバンクの場合は、無料となります。

注3) 12月31日が月～金曜日の場合は土曜日扱とする。

■JAネットバンキング取引による手数料

◆月額基本料金 無料

◆振込手数料

金額帯	振込先 自店内	県内系統	県外系統	他金融機関
3万円未満	無料	110円	220円	220円
3万円以上	無料	220円	220円	330円

◆振替手数料 無料

(消費税込)

※JAネットバンク:個人向けインターネットバンキング(法人JAネットバンキング取引の手数料は別途設定しています)

注1) モアタイム(営業日15:00～翌営業日8:00、土日・祝日)の手数料はコアタイム(8:00～15:00)の手数料と同額です。

事業のご案内(共済事業)

◇JA共済の仕組み

JA共済は、JAが行う地域密着型の総合事業の一環として、組合員・利用者の皆様の生命・傷害・家屋・財産を相互扶助によりトータルに保障しています。

事業実施当初から生命保障と損害保障の両方を実施しており、個人の日常生活のうえで必要とされるさまざまな保障・ニーズにお応えできます。

平成17年4月1日から、JAとJA共済連が共同で共済契約をお引き受けしています。JAとJA共済連がそれぞれの役割を担い、組合員・利用者の皆さまに密着した生活総合保障活動を行っています。

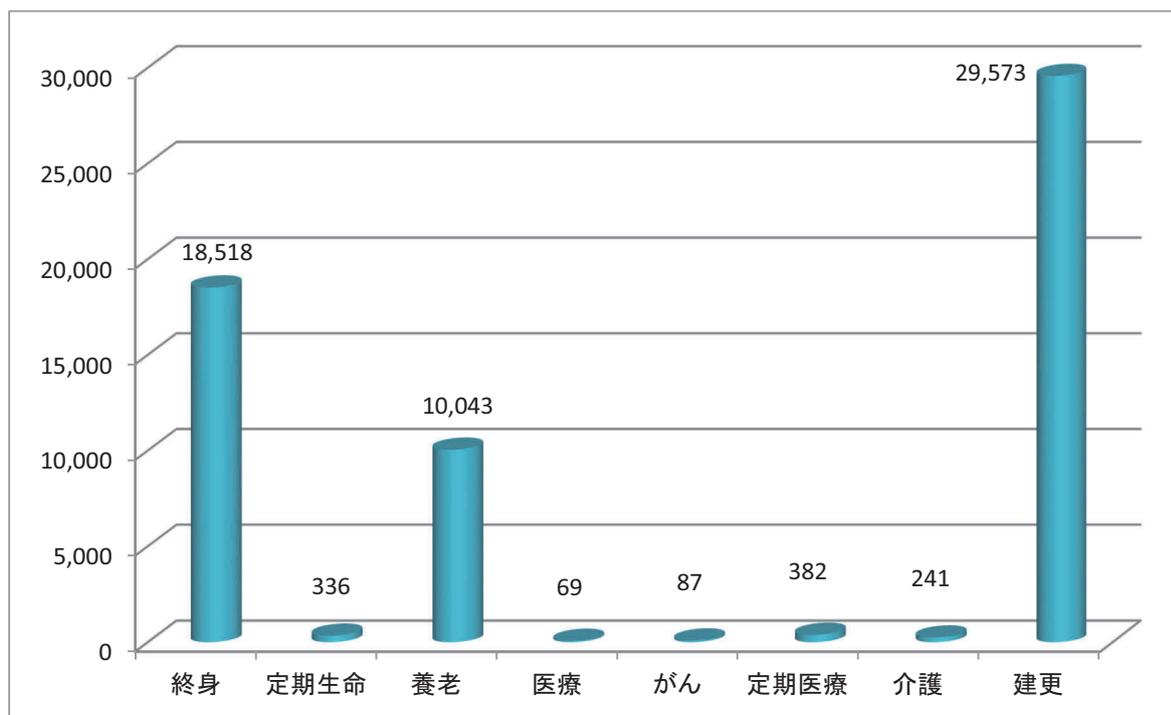


【JA】JA共済の窓口です。

【JA共済連】JA共済事業の企画・開発・資産運用業務や支払共済にかかる準備金の積み立てなどを行っています。

長期共済保有高

単位：百万円



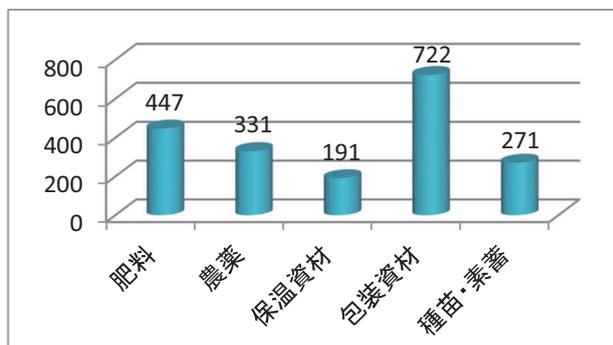
事業のご案内(購買事業)

購買事業は、農業生産に必要な生産資材や、お客様の生活に必要な生活物資を計画的に共同購入し、組合員・利用者・地域の皆様に幅広く優良商品を提供する事業です。今後ともお客様に便利な商品の提供を心がけてまいりますので、お気軽にご利用ください。

◇ 生産資材

肥料等については作物別の個別推進や、土壌診断などの営農を軸とした指導販売を実施しました。農薬等は近年増加した難防除病害虫に効果的な薬剤の導入やローテーション防除の指導しました。包装資材は材質調査を実施しながら問題点の改善を行いました。
多種多様化する栽培作物に対し、栽培知識・商品知識を高め組合員の要望に適切に対応できるよう努めます。

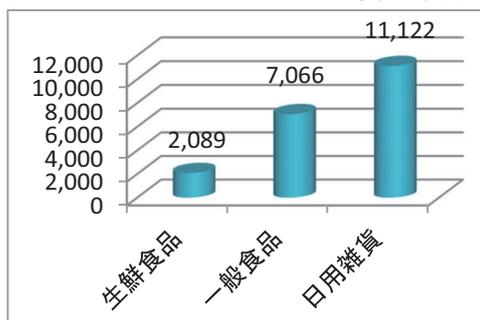
単位:百万円



◇ 生活物資

生活関係では、高齢化・ライフスタイルの多様化が進むなか、日常生活に関する商品を提供し、組合員のくらしを応援します。

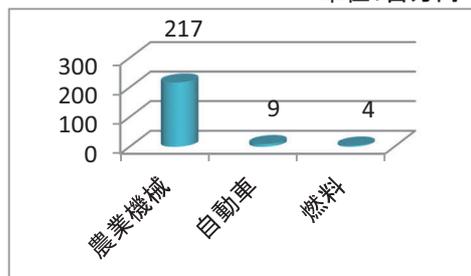
単位:千円



◇ 農業機械

新型コロナウイルス感染症拡大により中止していた農機展示会も令和4年度から再開いたしました。低コスト農業機械、軽トラックなどの推進を中心に取り組みました。今後も推進力を高めると共に多種多様化した農業機械のアイテムに対応できる整備体制を充実させてまいります。

単位:百万円

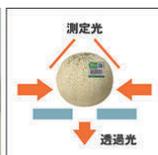


事業のご案内(販売事業)

販売事業は、農家の生産した農畜産物を取りまとめ、首都圏をはじめとして協同販売を行い、消費者の皆様へ安全で高品質、新鮮な農畜産物をお手頃な価格でお届けする事業です。
今後ともお客様に優良な農畜産物の提供を心がけてまいります。

★メロン★

- ・光センサー選果システムを使用し、1玉毎の非破壊糖度検査を実施。等級の基準に糖度を盛り込み”甘さ”による等級分けをしています。
- ・光センサー選果の利点を最大限に活かした”高糖度メロン”を直売所でのみ販売しています。
- ・ラベルに印字された二次元バーコードにより、1玉毎に情報を開示しています。



■JA茨城旭村規格	
プレミアム	全体の1%未満
特秀	糖度 18度以上
秀	16度以上
優	14度以上
A	13度以上
12度以上7ヶあり商品	

★葉物野菜★

- ・真空予冷装置を使用した輸送のクールドチェーン化により鮮度を保った状態で輸送しています
- ・ちぢみ小松菜を”あさひちりめん”の商標登録によりブランド化



★甘藷★

- ・キュアリング処理により甘藷の長期保存・熟成を実施しています
- ・特選品をブランド化。「旭 甘十郎」を商標登録し2017年から販売しています



★イチゴ★

- ・2018年、茨城県産では初めてロシアへ試験的に出荷し、2020年にはアメリカのサンフランシスコへ輸出しました。
- JA自慢のイチゴを海外にも届けるため、品質保持や輸出可能限界期日を探る意欲的な試みをしています。

JA茨城旭村特産物直売所

サングリーン 旭

太陽と緑の大地から美味しさ、安全、安心をお届けします。

農業をより身近にお客様と生産者の皆様とのふれあいを通して「新しい農業のカタチ」を目指してまいります。



営業時間 4月～9月 9:00～18:00
10月～3月 9:00～17:00
定休日 10月～3月 水曜日
年末年始 12/31～1/4

〒311-1426 茨城県鉾田市縦山602-6
TEL 0291-37-4147
FAX 0291-37-4354

宅配便で全国へ発送可能ネットショッピングもはじめ、さらに便利になりました。
<https://www.sungreen-asahi.jp/>

事業のご案内(利用事業)

- ◇ 葬祭事業の合理化を進め、組合員のニーズに応えJA祭典ほこたの効率的利用を進めています。

JA祭典ほこたホール

銚田市柏熊1001-63
営業時間:午前8時30分～午後5時30分
(24時間電話受付可能)

ご注文・お問い合わせ
 0120-003-151
TEL 0291-34-0983
FAX 0291-32-3420



- ◇ ゆうパックにより特産物であるメロン甘藷、いちごなどを関東地域を中心に全国的にPR、発送しています。
また、ダイレクトメールにより顧客の拡大を図り新鮮な特産物を直接消費者にお届けしています。



- ◇ サングリーン旭の駐車場に無人精米機を設置しております。



事業のご案内(指導事業)

指導事業

本年はロシアのウクライナ侵攻による肥料をはじめ、生産・販売に関わる農業資材価格高騰及び異常気象への栽培に対する対応など、生産現場では厳しい環境下における農業経営となっています。今後の担い手や経営継承者等にも大きな影響を及ぼす状況が続いております。

そのような中、JA大会の重要戦略の柱「生産力強化・販売力強化・コスト低減」による「農業者の所得増大」を目指し、各関係課が連携し支援活動を行なってきましたが、農業資材価格高騰の中では、前年の売り上げ達成では各生産者とも手取り金額が減少してしまい、農業経営がさらに厳しくなり、離農者も増加することが予想されます。

そのため、営農指導部門は「品質向上・生産力強化による単位収益の向上」を最重点項目とし、圃場巡回を基本に各関係機関等の同伴圃場巡回や営農システムを活用したファックス情報提供を含めて、単位収益向上による手取り額向上を目標に営農支援対策を行ってきました。

各部会及び生産者の協力を得て、品目ごとに課題を検証していただき、肥培管理や農薬防除体系表の見直し等による薬効向上における労力・農薬コスト削減ができるよう配布資料の修正等を行ない、また情報の受発信による迅速な肥培管理資料配布等での営農支援や販売戦略等で有利販売支援にも情報を共有して「農業者の所得増大、かつ手取り額の向上」を各関係課及び各関係機関等が連携して行ってきました。

このような状況下の中、本年青果物販売金額は過去最高金額を記録し、主要品目において10㍍あたりの単位収益も前年を上回る品目も拡大し、各個人ごとでは多少異なりますが、全体として農業資材価格高騰の中であっても「農業者の所得増大、かつ手取り額の向上」に貢献できたのだと思っております。これは生産者各位の長年の経験が生かされた肥培管理等の迅速、かつ素早い対応が行なわれた努力があってこそその結果でありました。

女性部

今年度はコロナ禍の活動制限が徐々に緩和され、中央会での茨城文化フェスタ・鹿行地区女性部会議などが開催されました。

また、コロナ禍前の様な活動は行うことはできませんでしたが、11月には支部役員日帰り研修、12月にはフラワー教室、1月には味噌作りを開催するなど、感染対策を施しながらも部員同士の絆を深める活動を行いました。さらに毎月定期的に行っているオカリナをはじめ、ヨガ教室では11月から月2回に増やし開催しました。

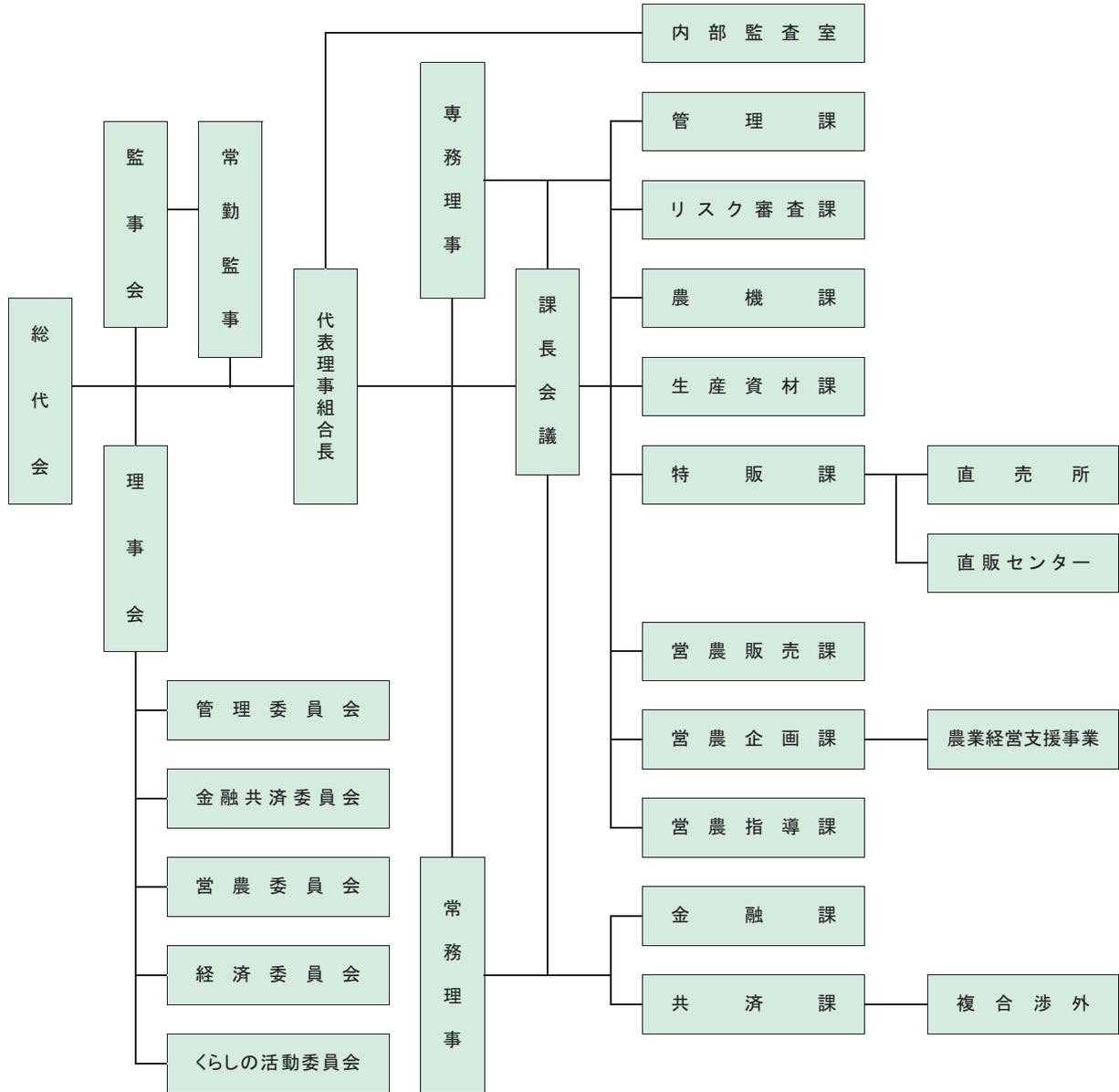
JAの概況・組織

沿革(あゆみ)

昭和39年6月1日	大谷、諏訪の両農協が合併して当農協の前身旭村農協が発足した。本所は造谷地内(旧旭村大谷農協事務所)におき、支所は縦山地内(旧旭村諏訪農協事務所)におく。新組合の役員は理事17名監事3名、職員は本支所を含め18名であった。
昭和41年	プリンスメロン部会結成。造谷地区を中心に35名の会員、作付面積5ha小型トンネルでの自根栽培でスタートした。昭和46年からパイプハウスの導入を積極的に進め、5月中旬からの販売をめざす。
昭和49年	本所農協会館竣工
昭和53年	電算機導入により、迅速且つ正確な事務処理が可能となった。
昭和56年	全銀加盟に伴い、名称を茨城旭村農業協同組合に変更。
昭和57年	中央選果場竣工。メロンが県銘柄産地第1号の指定を受けた。メロン部会員362名、面積330ha、出荷数量140万箱、17億9千万円の売り上げを達成。
昭和58年	信用オンラインシステム
昭和62年	子生支所事務所竣工
平成2年	縦山支所事務所竣工
平成4年	農機サービスセンター竣工
平成6年	縦山地区に農産物直売施設「サングリーン旭」オープン
平成8年	営農情報支援センター竣工。高度情報時代に対応した農業情報ネットワークシステムの開発と気象ロボットを活用した農業用地域気象観測を行っています。
平成14年	貯金高100億円突破
平成15年	青果物管理センター竣工。サングリーン旭新店舗移転オープン
平成16年	春メロンより青果物管理センター稼働、光センサー選果システムとともにトレーサビリティシステムを付加、生産物を管理しその情報を公開。
平成17年	真空冷却装置設置
平成25年	甘藷キュアリング貯蔵施設竣工 サングリーン旭新装
平成26年	大型保冷施設及び真空冷却装置竣工式 合併およびメロン部会設立50周年
平成27年	青果物販売高100億円達成
平成29年	貯金残高200億円突破
平成30年	新本店建設委員会を設置。平成31年オープンに向けて検討を重ねる。
平成31年 ～令和元年	本所・縦山支所・子生支所を廃止。新本店オープン。
令和3年	甘藷キュアリング貯蔵施設竣工

機 構 図

(令和5年1月31日現在)



役員構成

(令和5年1月31日現在)

役 職 名	氏 名	摘 要
代表理事組合長	新 堀 喜 一	
専 務 理 事	石 崎 齊	
常 務 理 事	本 田 良 也	信用・共済専任理事、実務精通役員
理 事	小 森 俊 秀	管理委員、くらしの活動委員
理 事	鈴 木 新 吾	管理委員
理 事	根 本 勇 一	金融・共済委員、くらしの活動委員
理 事	中 村 猛	営農委員、くらしの活動委員
理 事	坂 田 芳 幸	経済委員、くらしの活動委員
理 事	米 川 猛	金融・共済委員
理 事	村 上 勝 信	営農委員
理 事	石 田 正 一	経済委員
理 事	田 口 博 幸	管理委員
理 事	井 川 光 子	経済委員、くらしの活動委員、女性理事
理 事	園 原 一 規	営農委員
理 事	佐 伯 順 一	管理委員
理 事	米 川 信 正	金融・共済委員
理 事	石 崎 正 憲	営農委員
理 事	小 松 崎 悟	経済委員
理 事	田 口 洋 子	経済委員、くらしの活動委員、女性理事
理 事	梅 原 一 夫	管理委員
理 事	小 沼 昭 一	金融・共済委員
理 事	菅 谷 一 司	金融・共済委員
理 事	小 田 信 行	営農委員
理 事	小 沼 和 宏	経済委員
代 表 監 事	米 川 治 夫	
常 勤 監 事	白 田 英 一	実務精通役員
監 事	菅 谷 弘 史	員外監事
監 事	吉 川 博 文	員外監事

組合員数

(令和5年1月31日現在)

(単位:人・団体)

資格区分		令和3年度	令和4年度
(正組合員数)			
個人	男性	1,507	1,486
	女性	387	397
	計	1,894	1,883
法人		20	23
小計		1,914	1,906
(准組合員数)			
個人	男性	138	144
	女性	76	78
	計	214	222
法人または団体		21	21
小計		235	243
(組合員総数)			
個人	男性	1,624	1,630
	女性	463	475
	計	2,108	2,105
法人または団体		41	44
合計		2,149	2,149

組合員組織の状況

(令和5年1月31日現在)

(単位:人)

組織名	構成員数
生産部協議会	63
メロン部会	152
アールスメロン部会	61
トマト部会	216
甘藷部会	68
人参部会	32
イチゴ部会	36
蔬菜部会	221
馬鈴薯部会	12
養豚部会	4
年金友の会	1,200
青年部	40
女性部	97
農業青色申告会	200
旭村営農パソコンクラブ	12
サングリーン旭生産部会	316

当JAの組合員組織を記載しています。

地区一覧

(令和5年1月31日現在)

この組合の地区は茨城県鉾田市の内、造谷、鹿田、田崎、上太田、下太田、箕輪、柏熊新田、湯坪、滝浜、縦山、勝下、勝下新田、冷水、常磐、子生、玉田、荒地、沢尻、上釜、柏熊、安房の区域とする。

店舗等のご案内

(令和5年1月31日現在)

店舗	住所	電話番号	A T M (現金自動化機器) 設置・稼働状況
本店	鉾田市造谷1379-18	0291-37-0111	A T M (2台)
農機センター	鉾田市造谷1071	0291-37-4545	
営農情報支援センター	鉾田市造谷1377-1	0291-37-1661	
青果センター (集出荷施設)	鉾田市造谷1378-8	0291-37-1661	
資材センター	鉾田市造谷1377-1	0291-37-1414	
特産物直売所 サングリーン旭	鉾田市縦山602-6	0291-37-4147	A T M (1台)
キュアリング貯蔵施設 (甘藷貯蔵施設)	鉾田市造谷1239-5	0291-37-2891	
甘藷キュアリング貯蔵施設	鉾田市造谷1372-17		
青果物管理センター (光センサー集出荷施設)	鉾田市造谷1372-9	0291-34-4488	
甘藷洗浄選別施設	鉾田市造谷1377-1		
雨天検査場 (穀物検査場)	鉾田市造谷1067-3		
種芋貯蔵施設	鉾田市造谷1239-5		
直販センター	鉾田市子生876	0291-37-3660	

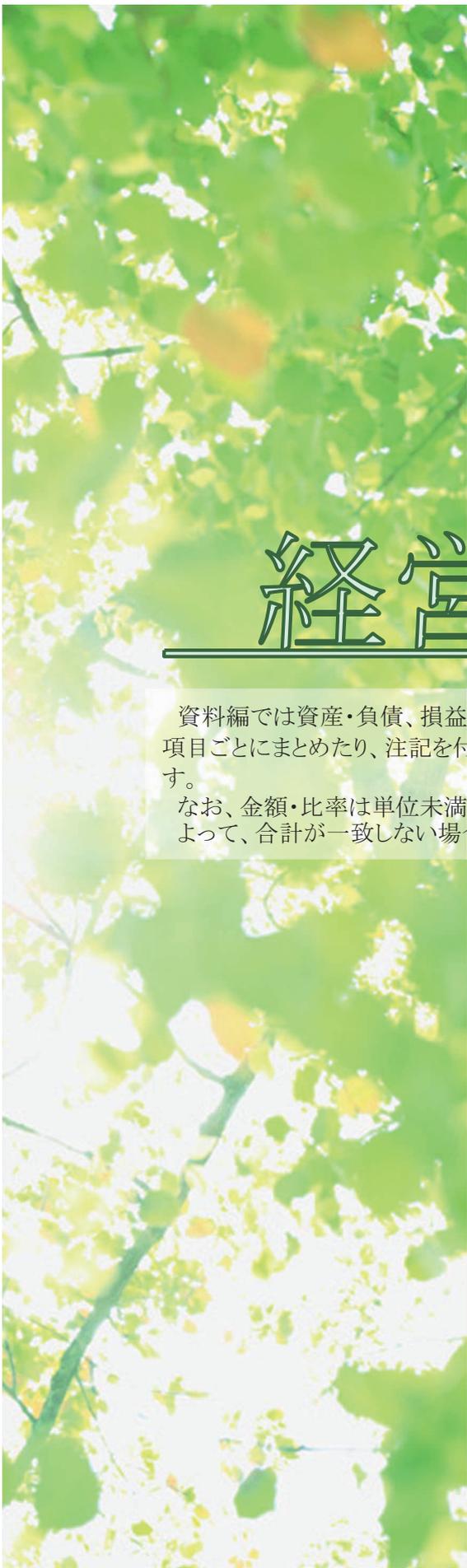
特定信用事業代理業者の状況

(令和5年1月31日現在)

該当ありません。

会計監査人の状況

当組合の会計監査人は、みのり監査法人であり、業務執行社員は公認会計士 満山幸成氏であります。



経営資料編

資料編では資産・負債、損益、各事業の実績等に関する事項について、項目ごとにまとめたり、注記を付けたりして理解しやすいようにしております。

なお、金額・比率は単位未満を切り捨てにより表示しております。よって、合計が一致しない場合があります。

決算の状況

貸借対照表

(単位:円)

科目	令和3年度 (令和4年1月31日現在)	令和4年度 (令和5年1月31日現在)
(資産の部)		
1. 信用事業資産	26,744,426,818	28,483,284,593
(1)現金	113,272,734	174,078,844
(2)預金	21,876,882,676	23,296,039,797
系統預金	21,805,786,260	23,213,531,784
系統外預金	71,096,416	82,508,013
(3)貸出金	4,631,336,793	4,892,831,922
(4)その他の信用事業資産	123,524,538	121,182,529
未収収益	117,963,408	118,511,999
その他の資産	5,561,130	2,670,530
(5)貸倒引当金	▲ 589,923	▲ 848,499
2. 共済事業資産	3,870,326	2,308,442
(1)その他の共済事業資産	3,870,326	2,308,442
3. 経済事業資産	1,041,944,795	1,198,534,347
(1)経済事業未収金	670,195,464	727,584,290
(2)経済受託債権	—	595,478
(3)棚卸資産	249,675,476	287,478,452
購買品	229,909,172	273,169,074
直売所販売品	3,686,230	—
その他の棚卸資産	16,080,074	14,309,378
(4)その他の経済事業資産	138,384,516	192,423,506
(5)貸倒引当金	▲ 16,310,661	▲ 9,547,379
4. 雑資産	202,373,349	209,319,598
(1)雑資産	202,373,349	209,319,598
5. 固定資産	1,276,362,230	1,266,534,006
(1)有形固定資産	1,245,217,978	1,251,732,587
建物	1,562,392,518	1,654,058,570
機械装置	1,547,316,786	1,578,049,614
土地	267,458,663	267,458,663
建設仮勘定	87,763,600	—
その他の有形固定資産	317,876,361	372,875,647
減価償却累計額	▲ 2,537,589,950	▲ 2,620,709,907
(2)無形固定資産	31,144,252	14,801,419
ソフトウェア	31,144,252	14,801,419
6. 外部出資	685,731,839	725,731,839
(1)外部出資	685,731,839	725,731,839
系統出資	637,601,838	677,601,838
系統外出資	48,130,001	48,130,001
7. 繰延税金資産	53,053,520	44,195,953
資産の部合計	30,007,762,877	31,929,908,778

(単位:円)

科 目	令和3年度 (令和4年1月31日現在)	令和4年度 (令和5年1月31日現在)
(負債の部)		
1. 信用事業負債	26,089,619,867	27,732,344,833
(1)貯 金	25,840,977,939	27,524,418,749
(2)借入金	151,438,000	148,628,000
(3)その他の信用事業負債	97,203,928	59,298,084
未払費用	4,258,196	3,147,825
その他の負債	92,945,732	56,150,259
2. 共済事業負債	89,784,796	88,318,148
(1)共済資金	43,134,857	39,530,917
(2)未経過共済付加収入	45,278,329	45,100,375
(3)共済未払費用	1,294,850	3,507,726
(4)その他の共済事業負債	76,760	179,130
3. 経済事業負債	347,052,399	381,547,885
(1)経済事業未払金	159,892,426	154,459,015
(2)経済受託債務	879,872	850,880
(3)その他の経済事業負債	186,280,101	226,237,990
4. 雑 負 債	198,607,748	187,077,505
(1)未払法人税等	91,611,000	99,935,100
(2)資産除去債務	25,209,917	25,371,512
(3)その他の負債	81,786,831	61,770,893
5. 諸 引 当 金	167,930,412	134,343,154
(1)賞与引当金	20,002,354	19,253,391
(2)退職給付引当金	132,057,158	110,814,063
(3)役員退職慰労引当金	15,870,900	4,275,700
負債の部合計	26,892,995,222	28,523,631,525
(純資産の部)		
1. 組合員資本	3,114,767,655	3,406,277,253
(1)出資金	844,599,000	857,139,000
(2)利益剰余金	2,273,255,655	2,553,122,253
利益準備金	667,450,000	723,450,000
その他利益剰余金	1,605,805,655	1,829,672,253
税効果調整積立金	55,246,334	50,252,766
選荷場特別会計健全収支積立金	269,949,822	284,455,023
財務基盤整備強化積立金	263,000,000	288,000,000
固定資産減損積立金	115,537,621	140,537,621
施設整備積立金	120,000,000	150,000,000
リスク対策積立金	50,000,000	80,000,000
外部出資減損対応積立金	37,000,000	40,000,000
特別積立金	235,000,000	235,000,000
当期末処分剰余金	460,071,878	561,426,843
(うち当期剰余金)	(278,694,585)	(325,234,626)
(3)処分未済持分	▲ 3,087,000	▲ 3,984,000
純資産の部合計	3,114,767,655	3,406,277,253
負債及び純資産の部合計	30,007,762,877	31,929,908,778

損益計算書

(単位:円)

科 目	令和3年度 令和3年2月1日から令和4年1月31日		令和4年度 令和4年2月1日から令和5年1月31日	
1. 事業総利益	1,246,088,306		1,293,946,583	
事業収益	4,214,464,931		4,332,623,511	
事業費用	2,968,376,625		3,030,899,149	
(1)信用事業収益	173,229,851		174,748,465	
資金運用収益	161,132,426		164,655,210	
(うち預金利息)	(108,161,464)		(109,046,277)	
(うち貸出金利息)	(46,579,516)		(48,333,913)	
(うちその他受入利息)	(6,391,446)		(7,275,020)	
役務取引等収益	6,184,397		6,802,131	
その他経常収益	5,913,028		3,291,124	
(2)信用事業費用	30,587,966		31,570,281	
資金調達費用	6,570,595		5,339,589	
(うち貯金利息)	(6,179,160)		(4,850,140)	
(うち給付補填備金繰入)	(43,219)		(24,049)	
(うち借入金利息)	(20,004)		—	
(うちその他支払利息)	(328,212)		(465,400)	
役務取引等費用	4,417,023		4,977,630	
その他経常費用	19,600,348		21,253,062	
(うち貸倒引当金戻入益)	(▲2,283,092)		(258,576)	
信用事業総利益	142,641,885		143,178,184	
(3)共済事業収益	150,129,242		140,226,969	
共済付加収入	135,478,335		130,142,345	
その他の収益	14,650,907		10,084,624	
(4)共済事業費用	18,280,849		15,392,770	
共済推進費	7,615,735		4,726,126	
共済保全費	107,929		132,613	
その他の費用	10,557,185		10,534,031	
共済事業総利益	131,848,393		124,834,199	
(5)購買事業収益	2,180,606,740		2,207,497,570	
購買品供給高	2,160,727,857		2,183,130,962	
購買手数料	—		2,328,895	
修理サービス料	14,881,434		16,383,980	
その他の収益	4,997,449		5,653,733	
(6)購買事業費用	1,965,174,560		1,973,436,893	
購買品供給原価	1,956,386,206		1,964,716,420	
購買品供給費	3,925,515		4,223,786	
修理サービス費	3,532,333		5,342,509	
その他の費用	1,330,506		▲845,822	
(うち貸倒引当金戻入益)	(▲3,273,203)		(▲6,763,282)	
購買事業総利益	215,432,180		234,060,677	
(7)販売事業収益	1,536,753,202		1,681,367,143	
販売品販売高	697,194,782		786,266,403	
販売手数料	264,478,947		293,409,577	
その他の収益	575,079,473		601,691,163	
(8)販売事業費用	802,942,256		930,035,056	
販売品販売原価	448,813,719		545,569,676	
販売費	228,350,396		244,179,574	
その他の費用	125,778,141		140,285,806	
販売事業総利益	733,810,946		751,332,087	

(単位:円)

科 目	令和3年度 令和3年2月1日から令和4年1月31日	令和4年度 令和4年2月1日から令和5年1月31日
(9)保管事業収益	131,143	131,118
(10)保管事業費用	—	—
保 管 事 業 総 利 益	131,143	131,118
(11)利用事業収益	98,889,644	26,652,987
(12)利用事業費用	71,524,258	78,380
利 用 事 業 総 利 益	27,365,386	26,574,607
(13)その他事業収益	65,413,911	74,416,326
(14)その他事業費用	36,723,245	41,676,046
そ の 他 事 業 総 利 益	28,690,666	32,740,280
(15)指導事業収入	11,033,045	24,790,659
(16)指導事業支出	44,865,338	43,695,228
指 導 事 業 収 支 差 額	▲ 33,832,293	▲ 18,904,569
2. 事 業 管 理 費	891,583,276	875,161,809
(1)人件費	547,155,877	525,953,799
(2)業務費	51,788,292	52,213,815
(3)諸税負担金	21,822,532	24,730,801
(4)施設費	269,801,598	270,361,703
(5)その他事業管理費	1,014,977	1,901,691
事 業 利 益	354,505,030	418,784,774
3. 事 業 外 収 益	19,214,226	20,078,857
(1)受取雑利息	3,293,905	2,996,315
(2)受取出資配当金	9,556,933	10,010,266
(3)賃貸料	1,523,605	1,320,415
(4)雑収入	4,839,783	5,751,861
4. 事 業 外 費 用	1,268,290	2,777,243
(1)寄付金	30,000	20,000
(2)賃貸関連費用	65,867	109,790
(3)雑損失	1,172,423	2,647,453
経 常 利 益	372,450,966	436,086,388
5. 特 別 利 益	41,077	96,201,000
(1)固定資産処分益	41,077	—
(2)一般補助金	—	96,201,000
6. 特 別 損 失	4,462,380	96,216,001
(1)固定資産処分損	1	15,001
(2)固定資産圧縮損	—	96,201,000
(3)減損損失	4,462,379	—
税引前当期利益	368,029,663	436,071,387
法人税、住民税及び事業税	93,562,523	101,979,194
法人税等調整額	▲ 4,227,445	8,857,567
法人税等合計	89,335,078	110,836,761
当期剰余金	278,694,585	325,234,626
当期首繰越剰余金	176,914,914	216,658,128
税効果調整積立金取崩額	—	9,039,290
選荷場特別会計健全収支積立金取崩額	—	10,494,799
固定資産減損積立金取崩額	4,462,379	—
当期末処分剰余金	460,071,878	561,426,843

(注)「事業収益」、「事業費用」は各事業の収益及び費用を合算し、事業相互間の内部損益を除去して表示しています。

注 記 表

令和3年度	令和4年度
<p>1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記</p> <p>(1) 有価証券（株式形態の外部出資を含む）の評価基準及び評価方法 その他有価証券 時価のないもの：移動平均法による原価法</p> <p>(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法 購買品（一品管理）：総平均法による原価法 （収益性の低下による簿価切下げの方法） 購買品（グループ管理）：売価還元法による原価法 （収益性の低下による簿価切下げの方法） 直売所販売品（青果・その他）：売価還元法による原価法 （収益性の低下による簿価切下げの方法） その他の棚卸資産：最終仕入原価法による原価法 （収益性の低下による簿価切下げの方法）</p> <p>(3) 固定資産の減価償却の方法</p> <p>① 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、営農情報支援センター、青果センター、甘藷洗浄選別施設、キュアリング貯蔵施設および青果物管理センターに属する有形固定資産、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。 耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっています。 取得価額が30万円未満の少額減価償却資産については、租税特別措置法等の規定にもとづき本年度一括償却しております。</p> <p>② 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用ソフトウェアについては、当組合における利用可能期間（5年）に基づく定額法により償却しています。</p> <p>(4) 引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金 貸倒引当金は、あらかじめ定めている資産自己査定要領、経理規程及び資産の償却・引当基準に則り、次のとおり計上しています。 破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（破綻先）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（実質破綻先）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しています。 また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。破綻懸念先に対する債権のうち債権の元本の回収に係るキャッシュ・フローを合理的に見積ることができる債権については、当該キャッシュ・フローと債権の帳簿価額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額との差額を引き当てています。 上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率等の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、算定しております。 すべての債権は、資産自己査定要領に基づき、融資担当部署等が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っています。</p> <p>② 賞与引当金 職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当事業年度負担分を計上しています。</p> <p>③ 退職給付引当金 職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度に発生していると認められる額を計上しています。なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。</p> <p>④ 役員退職慰労引当金 役員退職慰労金の支給に備えて、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しています。</p> <p>(5) 消費税及び地方消費税の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。</p>	<p>1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記</p> <p>(1) 有価証券（株式形態の外部出資を含む）の評価基準及び評価方法 その他有価証券 市場価値のない株式等：移動平均法による原価法</p> <p>(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法 購買品（一品管理）：総平均法による原価法 （収益性の低下による簿価切下げの方法） 購買品（グループ管理）：売価還元法による原価法 （収益性の低下による簿価切下げの方法） その他の棚卸資産：最終仕入原価法による原価法 （収益性の低下による簿価切下げの方法）</p> <p>(3) 固定資産の減価償却の方法</p> <p>① 有形固定資産 定率法を採用しております。ただし、営農情報支援センター、青果センター、甘藷洗浄選別施設、キュアリング貯蔵施設および青果物管理センターに属する有形固定資産、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。 耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっています。 取得価額が30万円未満の少額減価償却資産については、租税特別措置法等の規定にもとづき本年度一括償却しております。</p> <p>② 無形固定資産 定額法を採用しております。 なお、自社利用ソフトウェアについては、当組合における利用可能期間（5年）に基づく定額法により償却しています。</p> <p>(4) 引当金の計上基準</p> <p>① 貸倒引当金 貸倒引当金は、あらかじめ定めている資産自己査定要領、経理規程及び資産の償却・引当基準に則り、次のとおり計上しています。 破産、特別清算等法的に経営破綻の事実が発生している債務者（破綻先）に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者（実質破綻先）に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しています。 また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者に係る債権については、債権額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断して必要と認められる額を計上しています。破綻懸念先に対する債権のうち債権の元本の回収に係るキャッシュ・フローを合理的に見積ることができる債権については、当該キャッシュ・フローと債権の帳簿価額から担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除した残額との差額を引き当てています。 上記以外の債権については、主として今後1年間の予想損失額又は今後3年間の予想損失額を見込んで計上しており、予想損失額は、1年間又は3年間の貸倒実績を基礎とした貸倒実績率等の過去の一定期間における平均値に基づき損失率を求め、算定しております。 すべての債権は、資産自己査定要領に基づき、融資担当部署等が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しており、その査定結果に基づいて上記の引当を行っています。</p> <p>② 賞与引当金 職員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当事業年度負担分を計上しています。</p> <p>③ 退職給付引当金 職員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度に発生していると認められる額を計上しています。なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。</p> <p>④ 役員退職慰労引当金 役員退職慰労金の支給に備えて、役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しています。</p> <p>(5) 収益及び費用の計上基準 主要な事業における収益の計上基準</p>

令和3年度	令和4年度
<p>(6) その他計算書類等の作成のための基本となる重要な事項</p> <p>① 事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法 当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っておりません。よって、事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示しています。 ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則にしたがい、各事業相互間の内部損益を除去した額を記載しています。</p> <p>2. 表示方法の変更に関する注記 会計上の見積りに関する注記 「会計上の見積りの開示に関する会計基準」(企業会計基準第31号 2020年3月31日)を当事業年度より適用し、「会計上の見積りに関する注記」に記載しています。</p>	<p>当組合は、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)を適用しており、約束した財又はサービスの支配が利用者等に移転した時点で、もしくは、移転するにつれて当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識しております。 主要な事業における主な履行義務の内容及び収益を認識する通常の時点は以下のとおりであります。</p> <p>① 購買事業 農業生産に必要な資材と生活に必要な物資を共同購入し、組合員に供給する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、購買品を引き渡す義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、購買品の引き渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。</p> <p>② 販売事業 組合員が生産した農畜産物を当組合が集荷して共同で業者等に販売する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、販売品を引き渡す義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、販売品の引き渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。</p> <p>③ 保管事業 組合員が生産した米等の農産物を保管・管理する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、農産物の保管期間にわたって充足することから、当該サービスの進捗度に応じて収益を認識しております。</p> <p>④ 利用事業 葬祭の際に必要な物資等を購入し、組合員に供給するほか、直売所等での品物の郵送にかかる宅配物の管理および郵便局への引渡しをする事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、サービスの利用が完了した時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。</p> <p>⑤ その他事業 生産者及び業者が直売所に出荷、または直売所が買い取ったものを販売する事業であり、当組合は購入した利用者へ品物を受け渡す義務を負っております。この利用者に対する履行義務は、品物の引き渡し時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。</p> <p>⑥ 指導事業 組合員の営農にかかる各種相談・研修・経理サービスを提供する事業であり、当組合は利用者等との契約に基づき、役務提供する義務を負っております。この利用者等に対する履行義務は、主にサービスの提供が完了した時点で充足することから、当該時点で収益を認識しております。</p> <p>(6) 消費税及び地方消費税の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっています。</p> <p>(7) その他計算書類等の作成のための基本となる重要な事項</p> <p>① 事業別収益・事業別費用の内部取引の処理方法 当組合は、事業別の収益及び費用について、事業間取引の相殺表示を行っておりません。よって、事業別の収益及び費用については、事業間の内部取引も含めて表示しています。 ただし、損益計算書の事業収益、事業費用については、農業協同組合法施行規則にしたがい、各事業相互間の内部損益を除去した額を記載しています。</p> <p>② 当組合が代理人として関与する取引の損益計算書の表示について 購買事業収益のうち、当組合が代理人として購買品の供給に関与している場合には、純額で収益を認識して、購買手数料として表示しております。 販売事業収益のうち、当組合が代理人として販売品の販売に関与している場合には、純額で収益を認識して、販売手数料として表示しております。 利用事業収益のうち、当組合が代理人としてサービスの提供に関与している場合には、純額で収益を認識して、利用事業収益として表示しております。</p> <p>2. 会計方針の変更に関する注記 収益認識に関する会計基準等の適用 当組合は、「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)及び「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2021年3月26日)を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が利用者等に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。 収益認識会計基準等の適用による主な変更点は以下のとおりです。</p> <p>(1) 代理人取引に係る収益認識 財又はサービスを利用者等に移転する前に支配していない場合、すなわち、利用者等に代わって調達の手配を代理人として行う取引については、従来は、利用者等から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、利用者等から受け取る額から受入先(仕入先)に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。</p>

令和3年度	令和4年度																																				
<p>3. 会計上の見積りに関する注記 (固定資産の減損)</p> <p>(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額 減損損失 4,462,379円</p> <p>(2) 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報 資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産グループの割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を比較することにより、当該資産グループについての減損の要否の判断を実施しております。 減損の要否にかかる判定単位であるキャッシュ・フロー生成単位については、他の資産または資産グループのキャッシュ・インフローから概ね独立したキャッシュ・インフローを生成させるものとして識別される資産グループの最小単位としております。 固定資産の減損損失の認識、測定において、将来キャッシュ・フローについては、令和3年12月に作成した事業計画書を基礎として算出しており、事業計画書以降の将来キャッシュ・フローや、割引率等については、一定の仮定を設定して算出しております。 これらの仮定は将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受け、翌事業年度以降の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。</p> <p>4. 貸借対照表に関する注記 (1) 資産に係る圧縮記帳額を直接控除した場合における各資産の資産項目別の圧縮記帳額 有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は2,529,701,949円であり、その内訳は、次のとおりです。</p> <table border="1"> <tr> <td>建物</td> <td>932,098,000円</td> <td>構築物</td> <td>57,014,299円</td> </tr> <tr> <td>機械装置</td> <td>1,518,619,500円</td> <td>車両運搬具</td> <td>7,235,500円</td> </tr> <tr> <td>工具器具備品</td> <td>14,734,650円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(2) 担保に供している資産 定期預金1,000,000円を出納代理金融機関の事業取扱いに関する契約書に基づく担保に、定期預金1,500,000,000円を為替決済取引に係る決済保証金の差し入れの為の担保にそれぞれ供しています。</p> <p>(3) 貸出金のうちリスク管理債権の合計額及びその内訳 貸出金のうち、破綻先債権額はありません。延滞債権額は13,657,734円です。 なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金（貸倒償却を行った部分を除く。以下「未収利息不計上貸出金」という。）のうち、法人税法施行令（昭和40年政令第97号）第96条第1項第3号のイからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金です。 また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金です。 貸出金のうち、3か月以上延滞債権額はありません。 なお、3か月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものです。 貸出金のうち、貸出条件緩和債権額はありません。 なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払い猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3か月以上延滞債権に該当しないものです。 破綻先債権額、延滞債権額、3か月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は13,657,734円です。 なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。</p> <p>5. 損益計算書に関する注記 (1) 減損損失に関する注記 ① 資産をグループ化した方法の概要及び減損損失を認識した資産又は資産グループの概要 当組合では、投資の意思決定を行う単位としてグルーピングを実施した結果、営業店舗については、事業所を基本にグルーピングし、業務外固定資産（遊休資産及び貸貸資産）については各固定資産をグルーピングの最小単位としています。 また、独立したキャッシュ・フローを生み出さないものの、他の資産グループのキャッシュ・フローの生成に寄与していることから、本店、農機センター、サングリーン旭、営農情報支援センター、資材センターは組合全体の共用資産としております。 当事業年度に減損を計上した固定資産は、以下の通りです。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場 所</th> <th>用 途</th> <th>種 類</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>造谷1368-4,5</td> <td>駐車場</td> <td>土 地</td> <td>貸貸資産</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>パイプハウス</td> <td>建 築 物</td> <td>貸貸資産</td> </tr> </tbody> </table>	建物	932,098,000円	構築物	57,014,299円	機械装置	1,518,619,500円	車両運搬具	7,235,500円	工具器具備品	14,734,650円			場 所	用 途	種 類	その他	造谷1368-4,5	駐車場	土 地	貸貸資産	〃	パイプハウス	建 築 物	貸貸資産	<p>(2) 米穀共同計算にかかる収益認識 販売事業の米穀の県域共同計算において、従来は、代金を収受した時点で収益を認識しておりましたが、県域全体での販売実績進捗率に基づき収益を認識する方法に変更しております。 収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱い従っております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、当事業年度の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約については、新たな会計方針を遡及適用していません。 この結果、当事業年度の事業収益が105,359,158円、事業費用が104,897,781円減少し、事業利益、経常利益及び税引前当期利益が461,377円それぞれ減少しております。</p> <p>3. 会計上の見積りに関する注記 (固定資産の減損)</p> <p>(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額 減損損失の計上はありません。</p> <p>(2) 会計上の見積りの内容に関する理解に資する情報 資産グループに減損の兆候が存在する場合には、当該資産グループの割引前将来キャッシュ・フローと帳簿価額を比較することにより、当該資産グループについての減損の要否の判断を実施しております。 減損の要否にかかる判定単位であるキャッシュ・フロー生成単位については、他の資産または資産グループのキャッシュ・インフローから概ね独立したキャッシュ・インフローを生成させるものとして識別される資産グループの最小単位としております。 固定資産の減損損失の認識、測定において、将来キャッシュ・フローについては、令和4年10月に作成した事業計画書を基礎として算出しており、事業計画書以降の将来キャッシュ・フローや、割引率等については、一定の仮定を設定して算出しております。 これらの仮定は将来の不確実な経営環境及び組合の経営状況の影響を受け、翌事業年度以降の計算書類に重要な影響を与える可能性があります。</p> <p>4. 貸借対照表に関する注記 (1) 資産に係る圧縮記帳額を直接控除した場合における各資産の資産項目別の圧縮記帳額 有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は2,626,171,449円であり、その内訳は、次のとおりです。</p> <table border="1"> <tr> <td>建物</td> <td>1,003,930,428円</td> <td>構築物</td> <td>57,014,299円</td> </tr> <tr> <td>機械装置</td> <td>1,541,216,572円</td> <td>車両運搬具</td> <td>9,275,500円</td> </tr> <tr> <td>工具器具備品</td> <td>14,734,650円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(2) 担保に供している資産 定期預金1,000,000円を出納代理金融機関の事業取扱いに関する契約書に基づく担保に、定期預金1,500,000,000円を為替決済取引に係る決済保証金の差し入れの為の担保にそれぞれ供しています。</p> <p>(3) 債権のうち農業協同組合法施行規則第204条第1項第1号ホ（2）（i）から（iv）までに掲げるものの額及びその合計額 債権のうち、破産更生債権及びこれらに準ずる債権額は648,076円、危険債権額は10,703,200円です。 なお、破産更生債権及びこれらに準ずる債権とは、破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権です。 また、危険債権とは、債務者が経営破綻の状態には至っていないものの、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権（破産更生債権及びこれらに準ずる債権を除く。）です。 債権のうち、三月以上延滞債権、貸出条件緩和債権額はありません。 なお、三月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものです。 また、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払い猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものです。 破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権、三月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権額の合計額は11,351,276円です。 なお、上記に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額です。</p>	建物	1,003,930,428円	構築物	57,014,299円	機械装置	1,541,216,572円	車両運搬具	9,275,500円	工具器具備品	14,734,650円		
建物	932,098,000円	構築物	57,014,299円																																		
機械装置	1,518,619,500円	車両運搬具	7,235,500円																																		
工具器具備品	14,734,650円																																				
場 所	用 途	種 類	その他																																		
造谷1368-4,5	駐車場	土 地	貸貸資産																																		
〃	パイプハウス	建 築 物	貸貸資産																																		
建物	1,003,930,428円	構築物	57,014,299円																																		
機械装置	1,541,216,572円	車両運搬具	9,275,500円																																		
工具器具備品	14,734,650円																																				

令和3年度	令和4年度						
<p>② 減損損失の認識に至った経緯 全体共用資産から賃貸資産へ用途変更した結果、使用価値が帳簿価額まで達しないため帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当期減少額を減損損失として認識しました。</p> <p>③ 減損損失の金額について、特別損失に計上した金額と主な固定資産の種類毎の減損損失の内訳</p> <table border="1" data-bbox="239 336 558 414"> <tr> <td>土地（造谷1372-4.5）</td> <td>1,596,349円</td> </tr> <tr> <td>パイプハウス</td> <td>2,866,030円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>4,462,379円</td> </tr> </table> <p>④ 回収可能価額の算定方法 土地の回収可能価額は正味売却価額を採用しており、その時価は固定資産評価額で算定しています。</p>	土地（造谷1372-4.5）	1,596,349円	パイプハウス	2,866,030円	合計	4,462,379円	
土地（造谷1372-4.5）	1,596,349円						
パイプハウス	2,866,030円						
合計	4,462,379円						
<p>6. 金融商品に関する注記</p> <p>I 金融商品の状況に関する事項</p> <p>(1) 金融商品に対する取組方針 当組合は農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地域内の企業や団体などへ貸付け、残った余裕金を茨城県信用農業協同組合連合会へ預けています。</p> <p>(2) 金融商品の内容及びそのリスク 当組合が保有する金融資産は、主として当組合管内の組合員等に対する貸出金であり、貸出金は、組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。 営業債権である経済事業未収金は、組合員等の信用リスクに晒されています。</p> <p>(3) 金融商品に係るリスク管理体制</p> <p>① 信用リスクの管理 当組合は、個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、融資審査部署（リスク審査課）を設置し金融課との連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。</p> <p>② 市場リスクの管理 当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。 （市場リスクに係る定量的情報） 当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、貸出金、貯金です。 当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。 金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当事業年度末現在、指標となる金利が0.08%上昇したものと想定した場合には、経済価値が4,484,808円減少するものと把握しています。 当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。 また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。</p> <p>③ 資金調達に係る流動性リスクの管理 当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。</p> <p>(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 金融商品の時価（時価に代わるものを含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。</p>	<p>5. 金融商品に関する注記</p> <p>I 金融商品の状況に関する事項</p> <p>(1) 金融商品に対する取組方針 当組合は農家組合員や地域から預かった貯金を原資に、農家組合員や地域内の企業や団体などへ貸付け、残った余裕金を茨城県信用農業協同組合連合会へ預けています。</p> <p>(2) 金融商品の内容及びそのリスク 当組合が保有する金融資産は、主として当組合管内の組合員等に対する貸出金であり、貸出金は、組合員等の契約不履行によってもたらされる信用リスクに晒されています。 営業債権である経済事業未収金は、組合員等の信用リスクに晒されています。</p> <p>(3) 金融商品に係るリスク管理体制</p> <p>① 信用リスクの管理 当組合は、個別の重要案件又は大口案件については理事会において対応方針を決定しています。また、通常の貸出取引については、融資審査部署（リスク審査課）を設置し金融課との連携を図りながら、与信審査を行っています。審査にあたっては、取引先のキャッシュ・フローなどにより償還能力の評価を行うとともに、担保評価基準など厳格な審査基準を設けて、与信判定を行っています。貸出取引において資産の健全性の維持・向上を図るため、資産の自己査定を厳正に行っています。不良債権については管理・回収方針を作成・実践し、資産の健全化に取り組んでいます。また、資産自己査定の結果、貸倒引当金については「資産の償却・引当基準」に基づき必要額を計上し、資産及び財務の健全化に努めています。</p> <p>② 市場リスクの管理 当組合では、金利リスク、価格変動リスクなどの市場性リスクを的確にコントロールすることにより、収益化及び財務の安定化を図っています。このため、財務の健全性維持と収益力強化とのバランスを重視したALMを基本に、資産・負債の金利感応度分析などを実施し、金融情勢の変化に機敏に対応できる柔軟な財務構造の構築に努めています。 （市場リスクに係る定量的情報） 当組合で保有している金融商品はすべてトレーディング目的以外の金融商品です。当組合において、主要なリスク変数である金利リスクの影響を受ける主たる金融商品は、預金、貸出金、貯金です。 当組合では、これらの金融資産及び金融負債について、期末後1年程度の金利の合理的な予想変動幅を用いた経済価値の変動額を、金利の変動リスクの管理にあたっての定量的分析に利用しています。 金利以外のすべてのリスク変数が一定であると仮定し、当事業年度末現在、指標となる金利が0.26%上昇したものと想定した場合には、経済価値が9,966,291円減少するものと把握しています。 当該変動額は、金利を除くリスク変数が一定の場合を前提としており、金利とその他のリスク変数の相関を考慮していません。 また、金利の合理的な予想変動幅を超える変動が生じた場合には、算定額を超える影響が生じる可能性があります。</p> <p>③ 資金調達に係る流動性リスクの管理 当組合では、資金繰りリスクについては、運用・調達について月次の資金計画を作成し、安定的な流動性の確保に努めています。また、市場流動性リスクについては、投資判断を行う上での重要な要素と位置付け、商品ごとに異なる流動性（換金性）を把握したうえで、運用方針などの策定の際に検討を行っています。</p> <p>(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明 金融商品の時価（時価に代わるものを含む）には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額（これに準ずる価額を含む）が含まれています。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等による場合、当該価額が異なることもあります。</p>						

令和3年度			
II 金融商品の時価等に関する事項			
(1) 金融商品の貸借対照表計上額及び時価等			
当事業年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。			
なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものについては、次表には含めず(3)に記載しています。			
(単位：円)			
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
預金	21,876,882,676	21,877,054,258	171,582
貸出金 (*1)	4,631,336,793		
貸倒引当金 (*2)	▲ 589,923		
貸倒引当金控除後	4,630,746,870	4,751,414,455	120,667,585
経済事業未収金	670,195,464		
貸倒引当金 (*3)	▲ 16,310,661		
貸倒引当金控除後	653,884,803	653,884,803	—
資 産 計	27,161,514,349	27,282,353,516	120,839,167
貯金	25,840,977,939	25,844,970,178	3,922,239
負 債 計	25,840,977,939	25,844,970,178	3,922,239
(*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。			
(*2) 経済事業資産に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。			
(2) 金融商品の時価の算定方法			
【資産】			
① 預金			
満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである翌日物金利スワップ (Overnight Index Swap 以下 OIS という) のレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。			
② 貸出金			
貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっています。			
一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである OIS のレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。			
なお、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。			
③ 経済事業未収金			
経済事業未収金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。			
なお、延滞債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。			
【負債】			
① 貯金			
要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしています。また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートである OIS のレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。			

令和4年度			
II 金融商品の時価等に関する事項			
(1) 金融商品の貸借対照表計上額及び時価等			
当事業年度末における貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりです。			
なお、市場価格のない株式等は、次表には含めておりません。			
(単位：円)			
	貸借対照表計上額	時 価	差 額
預金	23,296,039,797	23,294,697,902	▲ 1,341,895
貸出金 (*1)	4,892,831,922		
貸倒引当金 (*2)	▲ 848,499		
貸倒引当金控除後	4,891,983,423	4,894,434,361	2,450,938
経済事業未収金	727,584,290		
貸倒引当金 (*3)	▲ 9,547,379		
貸倒引当金控除後	718,036,911	718,036,911	—
資 産 計	28,906,060,131	28,907,169,174	1,109,043
貯金	27,524,418,749	27,520,885,613	▲ 3,533,136
負 債 計	27,524,418,749	27,520,885,613	▲ 3,533,136
(*1) 貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。			
(*2) 経済事業資産に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しています。			
(2) 金融商品の時価の算定方法			
【資産】			
① 預金			
満期のない預金については、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっています。満期のある預金については、期間に基づく区分ごとに、リスクフリーレートである翌日物金利スワップ (Overnight Index Swap 以下 OIS という) のレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。			
② 貸出金			
貸出金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映するため、貸出先の信用状態が実行後大きく異ならない限り、時価は帳簿価額と近似していることから当該帳簿価額によっています。			
一方、固定金利によるものは、貸出金の種類及び期間に基づく区分ごとに、元利金の合計額をリスクフリーレートである OIS のレートで割り引いた額から貸倒引当金を控除して時価に代わる金額として算定しています。			
なお、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。			
③ 経済事業未収金			
経済事業未収金については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。			
なお、延滞の生じている債権・期限の利益を喪失した債権等について、帳簿価額から貸倒引当金を控除した額を時価に代わる金額としています。			
【負債】			
① 貯金			
要求払貯金については、決算日に要求された場合の支払額(帳簿価額)を時価とみなしています。また、定期性貯金については、期間に基づく区分ごとに、将来のキャッシュ・フローをリスクフリーレートである OIS のレートで割り引いた現在価値を時価に代わる金額として算定しています。			

令和3年度						
(3) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品は次のとおりであり、これらは(1)の金融商品の時価情報には含まれていません。						
(単位：円)						
種 類	貸借対照表計上額					
外部出資(※1)	685,731,839					
(※1) 外部出資のうち、市場価格のある株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難であると認められるため、時価開示の対象とはしていません。						
(4) 金銭債権の決算日後の償還予定額						
(単位：円)						
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預 金	21,876,882,676	-	-	-	-	-
貸出金(*1,2)	597,681,664	501,844,874	432,698,546	337,796,184	275,183,634	2,481,382,291
経済事業未収金(*3)	650,804,468	-	-	-	-	-
合 計	23,125,368,808	501,844,874	432,698,546	337,796,184	275,183,634	2,481,382,291
(※1) 貸出金のうち、当座貸越(融資型を除く)41,918,880円については「1年以内」に含めています。また、期限のない場合は「5年超」に含めています。						
(※2) 貸出金のうち、3か月以上延滞債権・期限の利益を喪失した債権等4,749,600円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。						
(※3) 経済事業未収金のうち、破綻懸念先、実質破綻先及び破綻先に対する債権等19,390,996円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。						
(5) その他の有利子負債の決算日後の返済予定額						
(単位：円)						
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯 金(*1)	25,450,158,123	120,110,927	78,939,815	74,400,684	117,368,390	-
合 計	25,450,158,123	120,110,927	78,939,815	74,400,684	117,368,390	-
(※1) 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。						
7. 退職給付に関する注記						
(1) 退職給付に係る注記						
① 採用している退職給付制度の概要						
職員の退職給付にあてるため、退職給与規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、同規程に基づき退職給付の一部にあてるため全国共済農業協同組合連合会との契約による確定給付型年金制度並びに(一財)全国農林漁業団体共済会との契約による退職金共済制度を採用しています。						
なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。						
② 退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表						
	期首における退職給付引当金	126,211,236円				
	退職給付費用	25,323,858円				
	退職給付の支払額	▲4,552,336円				
	特定退職金共済制度への拠出金	▲14,925,600円				
	期末における退職給付引当金	132,057,158円				
③ 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表						
	退職給付債務	337,666,756円				
	特定退職金共済制度	▲205,609,598円				
	未積立退職給付債務	132,057,158円				
	退職給付引当金	132,057,158円				
④ 退職給付に関連する損益						
	勤務費用	25,323,858円				
	退職給付費用	25,323,858円				

令和4年度						
(3) 市場価格のない株式等は次のとおりであり、これらは(1)の金融商品の時価情報には含まれていません。						
(単位：円)						
種 類	貸借対照表計上額					
外部出資(※1)	725,731,839					
(※1) 外部出資のうち、市場価格のある株式以外のものについては、時価を把握することが極めて困難であると認められるため、時価開示の対象とはしていません。						
(4) 金銭債権の決算日後の償還予定額						
(単位：円)						
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
預 金	23,296,039,797	-	-	-	-	-
貸出金(*1,2)	586,168,478	495,160,348	399,064,450	338,021,849	308,112,079	2,762,481,284
経済事業未収金(*3)	716,687,862	-	-	-	-	-
合 計	24,598,896,137	495,160,348	399,064,450	338,021,849	308,112,079	2,762,481,284
(※1) 貸出金のうち、当座貸越(融資型を除く)35,949,583円については「1年以内」に含めています。また、期限のない場合は「5年超」に含めています。						
(※2) 貸出金のうち、三月以上延滞債権・期限の利益を喪失した債権等3,823,434円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。						
(※3) 経済事業未収金のうち、破綻懸念先、実質破綻先及び破綻先に対する債権等10,896,428円は償還の予定が見込まれないため、含めていません。						
(5) その他の有利子負債の決算日後の返済予定額						
(単位：円)						
	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超
貯 金(*1)	27,192,770,875	94,869,913	102,300,219	116,853,390	17,624,352	-
合 計	27,192,770,875	94,869,913	102,300,219	116,853,390	17,624,352	-
(※1) 貯金のうち、要求払貯金については「1年以内」に含めています。						
6. 退職給付に関する注記						
(1) 退職給付に係る注記						
① 採用している退職給付制度の概要						
職員の退職給付にあてるため、退職給与規程に基づき、退職一時金制度を採用しています。また、この制度に加え、同規程に基づき退職給付の一部にあてるため(一財)全国農林漁業団体共済会との契約による退職金共済制度を採用しています。						
なお、退職給付引当金及び退職給付費用の計算に、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする方法を用いた簡便法を適用しています。						
② 退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表						
	期首における退職給付引当金	132,057,158円				
	退職給付費用	21,486,601円				
	退職給付の支払額	▲28,734,196円				
	特定退職金共済制度への拠出金	▲13,995,500円				
	期末における退職給付引当金	110,814,063円				
③ 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表						
	退職給付債務	286,813,879円				
	特定退職金共済制度	▲175,999,816円				
	未積立退職給付債務	110,814,063円				
	退職給付引当金	110,814,063円				
④ 退職給付に関連する損益						
	勤務費用	21,486,601円				
	退職給付費用	21,486,601円				

令和3年度	令和4年度																																																																																																																								
<p>(2) 特例業務負担金の将来見込額 人件費（うち福利厚生費）には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第57条に基づき、旧農林共済組合（存続組合）が行う特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金6,184,888円を含めて計上しています。 なお、同組合より示された令和3年3月現在における令和14年3月までの特例業務負担金の将来見込額は、71,124,000円となっています。</p>	<p>(2) 特例業務負担金の将来見込額 人件費（うち福利厚生費）には、厚生年金保険制度及び農林漁業団体職員共済組合制度の統合を図るための農林漁業団体職員共済組合法等を廃止する等の法律附則第57条に基づき、旧農林共済組合（存続組合）が行う特例年金等の業務に要する費用に充てるため拠出した特例業務負担金6,252,936円を含めて計上しています。 なお、同組合より示された令和4年3月現在における令和14年3月までの特例業務負担金の将来見込額は、66,186,000円となっています。</p>																																																																																																																								
<p>8. 税効果会計に関する注記</p> <p>(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳</p> <table border="0"> <tr><td colspan="2">繰延税金資産</td></tr> <tr><td>貸倒引当金</td><td style="text-align: right;">98,550円</td></tr> <tr><td>未収利息</td><td style="text-align: right;">1,386,310円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">3,436,975円</td></tr> <tr><td>未払社会保険料</td><td style="text-align: right;">891,903円</td></tr> <tr><td>年度末一時金</td><td style="text-align: right;">2,003,665円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">5,774,070円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">4,316,885円</td></tr> <tr><td>減価償却（減損損失）</td><td style="text-align: right;">774,971円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">35,919,547円</td></tr> <tr><td>資産除去債務</td><td style="text-align: right;">6,857,097円</td></tr> <tr><td>税務調査 建物附属設備</td><td style="text-align: right;">320,441円</td></tr> <tr><td>土地（減損損失）</td><td style="text-align: right;">3,029,840円</td></tr> <tr><td>外部出資減損</td><td style="text-align: right;">272,000円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">65,082,254円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">▲5,790,198円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計（A）</td><td style="text-align: right;">59,292,056円</td></tr> <tr><td colspan="2">繰延税金負債</td></tr> <tr><td>全農適格合併みなし配当</td><td style="text-align: right;">▲38,080円</td></tr> <tr><td>固定資産過大計上額</td><td style="text-align: right;">▲6,200,456円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計（B）</td><td style="text-align: right;">▲6,238,536円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額（A）+（B）</td><td style="text-align: right;">53,053,520円</td></tr> </table> <p>(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因</p> <table border="0"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">27.2%</td></tr> <tr><td colspan="2">（調整）</td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金算入されない項目</td><td style="text-align: right;">0.5%</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金算入されない項目</td><td style="text-align: right;">▲2.4%</td></tr> <tr><td>住民税均等割額</td><td style="text-align: right;">0.1%</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増減</td><td style="text-align: right;">▲1.0%</td></tr> <tr><td>中小企業等機械取得特別控除</td><td style="text-align: right;">1.0%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">▲0.2%</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">24.3%</td></tr> </table>	繰延税金資産		貸倒引当金	98,550円	未収利息	1,386,310円	賞与引当金	3,436,975円	未払社会保険料	891,903円	年度末一時金	2,003,665円	未払事業税	5,774,070円	役員退職慰労引当金	4,316,885円	減価償却（減損損失）	774,971円	退職給付引当金	35,919,547円	資産除去債務	6,857,097円	税務調査 建物附属設備	320,441円	土地（減損損失）	3,029,840円	外部出資減損	272,000円	繰延税金資産小計	65,082,254円	評価性引当額	▲5,790,198円	繰延税金資産合計（A）	59,292,056円	繰延税金負債		全農適格合併みなし配当	▲38,080円	固定資産過大計上額	▲6,200,456円	繰延税金負債合計（B）	▲6,238,536円	繰延税金資産の純額（A）+（B）	53,053,520円	法定実効税率	27.2%	（調整）		交際費等永久に損金算入されない項目	0.5%	受取配当金等永久に益金算入されない項目	▲2.4%	住民税均等割額	0.1%	評価性引当額の増減	▲1.0%	中小企業等機械取得特別控除	1.0%	その他	▲0.2%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	24.3%	<p>7. 税効果会計に関する注記</p> <p>(1) 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生原因別の主な内訳</p> <table border="0"> <tr><td colspan="2">繰延税金資産</td></tr> <tr><td>未収利息</td><td style="text-align: right;">1,373,419円</td></tr> <tr><td>賞与引当金</td><td style="text-align: right;">3,350,542円</td></tr> <tr><td>未払社会保険料</td><td style="text-align: right;">860,359円</td></tr> <tr><td>年度末一時金</td><td style="text-align: right;">1,886,381円</td></tr> <tr><td>未払事業税</td><td style="text-align: right;">6,271,314円</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金</td><td style="text-align: right;">1,162,990円</td></tr> <tr><td>減価償却（減損損失）</td><td style="text-align: right;">719,901円</td></tr> <tr><td>退職給付引当金</td><td style="text-align: right;">30,141,426円</td></tr> <tr><td>資産除去債務</td><td style="text-align: right;">6,901,051円</td></tr> <tr><td>税務調査 建物附属設備</td><td style="text-align: right;">256,263円</td></tr> <tr><td>土地（減損損失）</td><td style="text-align: right;">3,029,840円</td></tr> <tr><td>外部出資減損</td><td style="text-align: right;">272,000円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産小計</td><td style="text-align: right;">56,225,486円</td></tr> <tr><td>評価性引当額</td><td style="text-align: right;">▲5,972,720円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産合計（A）</td><td style="text-align: right;">50,252,766円</td></tr> <tr><td colspan="2">繰延税金負債</td></tr> <tr><td>全農適格合併みなし配当</td><td style="text-align: right;">▲38,080円</td></tr> <tr><td>固定資産過大計上額</td><td style="text-align: right;">▲6,018,733円</td></tr> <tr><td>繰延税金負債合計（B）</td><td style="text-align: right;">▲6,056,813円</td></tr> <tr><td>繰延税金資産の純額（A）+（B）</td><td style="text-align: right;">44,195,953円</td></tr> </table> <p>(2) 法定実効税率と法人税等負担率との差異の主な原因</p> <table border="0"> <tr><td>法定実効税率</td><td style="text-align: right;">27.2%</td></tr> <tr><td colspan="2">（調整）</td></tr> <tr><td>交際費等永久に損金算入されない項目</td><td style="text-align: right;">0.4%</td></tr> <tr><td>受取配当金等永久に益金算入されない項目</td><td style="text-align: right;">▲2.3%</td></tr> <tr><td>住民税均等割額</td><td style="text-align: right;">0.1%</td></tr> <tr><td>評価性引当額の増減</td><td style="text-align: right;">0.0%</td></tr> <tr><td>その他</td><td style="text-align: right;">▲0.0%</td></tr> <tr><td>税効果会計適用後の法人税等の負担率</td><td style="text-align: right;">25.4%</td></tr> </table>	繰延税金資産		未収利息	1,373,419円	賞与引当金	3,350,542円	未払社会保険料	860,359円	年度末一時金	1,886,381円	未払事業税	6,271,314円	役員退職慰労引当金	1,162,990円	減価償却（減損損失）	719,901円	退職給付引当金	30,141,426円	資産除去債務	6,901,051円	税務調査 建物附属設備	256,263円	土地（減損損失）	3,029,840円	外部出資減損	272,000円	繰延税金資産小計	56,225,486円	評価性引当額	▲5,972,720円	繰延税金資産合計（A）	50,252,766円	繰延税金負債		全農適格合併みなし配当	▲38,080円	固定資産過大計上額	▲6,018,733円	繰延税金負債合計（B）	▲6,056,813円	繰延税金資産の純額（A）+（B）	44,195,953円	法定実効税率	27.2%	（調整）		交際費等永久に損金算入されない項目	0.4%	受取配当金等永久に益金算入されない項目	▲2.3%	住民税均等割額	0.1%	評価性引当額の増減	0.0%	その他	▲0.0%	税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.4%
繰延税金資産																																																																																																																									
貸倒引当金	98,550円																																																																																																																								
未収利息	1,386,310円																																																																																																																								
賞与引当金	3,436,975円																																																																																																																								
未払社会保険料	891,903円																																																																																																																								
年度末一時金	2,003,665円																																																																																																																								
未払事業税	5,774,070円																																																																																																																								
役員退職慰労引当金	4,316,885円																																																																																																																								
減価償却（減損損失）	774,971円																																																																																																																								
退職給付引当金	35,919,547円																																																																																																																								
資産除去債務	6,857,097円																																																																																																																								
税務調査 建物附属設備	320,441円																																																																																																																								
土地（減損損失）	3,029,840円																																																																																																																								
外部出資減損	272,000円																																																																																																																								
繰延税金資産小計	65,082,254円																																																																																																																								
評価性引当額	▲5,790,198円																																																																																																																								
繰延税金資産合計（A）	59,292,056円																																																																																																																								
繰延税金負債																																																																																																																									
全農適格合併みなし配当	▲38,080円																																																																																																																								
固定資産過大計上額	▲6,200,456円																																																																																																																								
繰延税金負債合計（B）	▲6,238,536円																																																																																																																								
繰延税金資産の純額（A）+（B）	53,053,520円																																																																																																																								
法定実効税率	27.2%																																																																																																																								
（調整）																																																																																																																									
交際費等永久に損金算入されない項目	0.5%																																																																																																																								
受取配当金等永久に益金算入されない項目	▲2.4%																																																																																																																								
住民税均等割額	0.1%																																																																																																																								
評価性引当額の増減	▲1.0%																																																																																																																								
中小企業等機械取得特別控除	1.0%																																																																																																																								
その他	▲0.2%																																																																																																																								
税効果会計適用後の法人税等の負担率	24.3%																																																																																																																								
繰延税金資産																																																																																																																									
未収利息	1,373,419円																																																																																																																								
賞与引当金	3,350,542円																																																																																																																								
未払社会保険料	860,359円																																																																																																																								
年度末一時金	1,886,381円																																																																																																																								
未払事業税	6,271,314円																																																																																																																								
役員退職慰労引当金	1,162,990円																																																																																																																								
減価償却（減損損失）	719,901円																																																																																																																								
退職給付引当金	30,141,426円																																																																																																																								
資産除去債務	6,901,051円																																																																																																																								
税務調査 建物附属設備	256,263円																																																																																																																								
土地（減損損失）	3,029,840円																																																																																																																								
外部出資減損	272,000円																																																																																																																								
繰延税金資産小計	56,225,486円																																																																																																																								
評価性引当額	▲5,972,720円																																																																																																																								
繰延税金資産合計（A）	50,252,766円																																																																																																																								
繰延税金負債																																																																																																																									
全農適格合併みなし配当	▲38,080円																																																																																																																								
固定資産過大計上額	▲6,018,733円																																																																																																																								
繰延税金負債合計（B）	▲6,056,813円																																																																																																																								
繰延税金資産の純額（A）+（B）	44,195,953円																																																																																																																								
法定実効税率	27.2%																																																																																																																								
（調整）																																																																																																																									
交際費等永久に損金算入されない項目	0.4%																																																																																																																								
受取配当金等永久に益金算入されない項目	▲2.3%																																																																																																																								
住民税均等割額	0.1%																																																																																																																								
評価性引当額の増減	0.0%																																																																																																																								
その他	▲0.0%																																																																																																																								
税効果会計適用後の法人税等の負担率	25.4%																																																																																																																								
<p>9. その他の注記</p> <p>(1) 「資産除去債務に関する会計基準」に基づく注記</p> <p>資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの</p> <p>①当該資産除去債務の概要 当組合の本店は、借地上に建設してあることから、設置の際に土地所有者と不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了による原状回復義務に関し資産除去債務を計上しています。</p> <p>②当該資産除去債務の金額の算定方法 資産除去債務の見積りにあたり、支出までの見込期間は令和元年～令和38年、割引率は0.641%を採用しています。</p> <p>③当事業年度末における当該資産除去債務の総額の増減</p> <table border="0"> <tr><td>期首残高</td><td style="text-align: right;">25,049,351円</td></tr> <tr><td>有形固定資産の取得に伴う増加額</td><td style="text-align: right;">-</td></tr> <tr><td>時の経過による調整額</td><td style="text-align: right;">160,566円</td></tr> <tr><td>期末残高</td><td style="text-align: right;">25,209,917円</td></tr> </table>	期首残高	25,049,351円	有形固定資産の取得に伴う増加額	-	時の経過による調整額	160,566円	期末残高	25,209,917円	<p>8. 収益認識に関する注記 （収益を理解するための基礎となる情報） 「1. 重要な会計方針に係る事項に関する注記（5）収益及び費用の計上基準」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。</p> <p>9. その他の注記</p> <p>(1) 「資産除去債務に関する会計基準」に基づく注記</p> <p>資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの</p> <p>①資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの</p> <p>①当該資産除去債務の概要 当組合の本店は、借地上に建設してあることから、設置の際に土地所有者と不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了による原状回復義務に関し資産除去債務を計上しています。</p> <p>②当該資産除去債務の金額の算定方法 資産除去債務の見積りにあたり、支出までの見込期間は令和元年～令和38年、割引率は0.641%を採用しています。</p> <p>③当事業年度末における当該資産除去債務の総額の増減</p> <table border="0"> <tr><td>期首残高</td><td style="text-align: right;">25,209,917円</td></tr> <tr><td>有形固定資産の取得に伴う増加額</td><td style="text-align: right;">-</td></tr> <tr><td>時の経過による調整額</td><td style="text-align: right;">161,595円</td></tr> <tr><td>期末残高</td><td style="text-align: right;">25,371,512円</td></tr> </table>	期首残高	25,209,917円	有形固定資産の取得に伴う増加額	-	時の経過による調整額	161,595円	期末残高	25,371,512円																																																																																																								
期首残高	25,049,351円																																																																																																																								
有形固定資産の取得に伴う増加額	-																																																																																																																								
時の経過による調整額	160,566円																																																																																																																								
期末残高	25,209,917円																																																																																																																								
期首残高	25,209,917円																																																																																																																								
有形固定資産の取得に伴う増加額	-																																																																																																																								
時の経過による調整額	161,595円																																																																																																																								
期末残高	25,371,512円																																																																																																																								

令和3年度	令和4年度
<p>貸借対照表に計上している以外の資産除去債務</p> <p>当組合は、直販センターに関して、不動産賃借契約に基づき、退去時における原状回復にかかる義務を有していますが、当該直販センターは当組合が事業を継続する上で必須の施設であり、現時点で除去は想定していません。また、移転が行われる予定もないことから、資産除去債務の履行時期を合理的に見積ることができません。そのため、当該義務に見合う資産除去債務を計上していません。</p> <p>(2) 当座貸越契約</p> <p>当座貸越契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約です。これらの契約に係る融資未実行残高は 75,566,120 円です。</p>	<p>貸借対照表に計上している以外の資産除去債務</p> <p>当組合は、直販センターに関して、不動産賃借契約に基づき、退去時における原状回復にかかる義務を有していますが、当該直販センターは当組合が事業を継続する上で必須の施設であり、現時点で除去は想定していません。また、移転が行われる予定もないことから、資産除去債務の履行時期を合理的に見積ることができません。そのため、当該義務に見合う資産除去債務を計上していません。</p> <p>(2) 当座貸越契約</p> <p>当座貸越契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸付けることを約する契約です。これらの契約に係る融資未実行残高は 64,472,417 円です。</p>

剰余金処分計算書

(単位:円)

科 目	令和3年度	令和4年度
1.当期末処分剰余金	460,071,878	561,426,843
2.剰余金処分額	243,413,750	292,290,343
(1)利益準備金	56,000,000	66,000,000
(2)任意積立金	142,045,722	177,000,000
①税効果調整積立金	4,045,722	—
②選荷場特別会計健全収支積立金	25,000,000	50,000,000
③財務基盤強化積立金	25,000,000	12,000,000
④固定資産減損・処分対策積立金	25,000,000	30,000,000
⑤施設整備積立金	30,000,000	30,000,000
⑥リスク対策積立金	30,000,000	20,000,000
⑦外部出資減損対応積立金	3,000,000	5,000,000
⑧営農経済事業積立金	—	30,000,000
(3)出資配当金	17,461,172	17,679,483
(4)事業分量配当金	27,906,856	31,610,860
3.次期繰越剰余金	216,658,128	269,136,500

I. 出資配当金については次のとおりです。

令和3年度	2.1%の割合です。
令和4年度	2.1%の割合です。

ただし、年度内の増資及び新規加入については日割り計算をしています。

II. 事業分量配当金の基準は次のとおりです。

		令和3年度	令和4年度
購 買	肥料供給高	1.340%	1.508%
	農業供給高	1.340%	1.508%
	保温資材供給高	1.340%	1.508%
販 売	青果物販売高	0.117%	0.117%

III. 目的積立金の種類、積立目的、積立目標額、積立基準等は次のとおりです。

種 類	目的及び取り崩し基準	積立目標金額
税効果調整積立金	繰延税金資産(法人税等の前払部分)の剰余金処分を留保するために積立を行う。取り崩しは法人税等の繰延税金資産が回収された金額を取り崩す。	—
選荷場特別会計健全収支積立金	選荷場特別会計の健全経営のため、積立を行う。取り崩しについては特別の費用が収益を超過した場合、理事会の決議により必要と認められた額を取り崩す。	500,000,000
財務基盤整備強化積立金	財務基盤安定化のため、積立を行う。取り崩しは資産自己査定に基づく貸倒引当金、費用等が過年度に比して大幅に増加した場合等、理事会の決議により必要と認められた額を取り崩す。	300,000,000
固定資産減損・処分対策積立金	固定資産減損・処分、資産除去債務に備え、組合の安定的な財務基盤の確立のために積立を行う。取り崩しは減損損失、資産の処分、取壊し費用及び資産除去債務の履行の適用範囲内で理事会の決議により取り崩す。	300,000,000
施設整備積立金	農業関連施設ならびに事務所施設の再取得および取壊し、修繕に備えるために積立を行う。取り崩しについては再取得および修繕の支出に対して、理事会の決議により必要と認められた額を取り崩す。	200,000,000
リスク対策積立金	組合の運営上、予期せぬ事態が発生した場合の損失及び被害等に備えるため積立を行う。自然災害等による多額の被害、損害賠償及び損失が生じた場合に理事会の決議により必要と認められた額を取り崩す。	200,000,000
外部出資減損対応積立金	外部出資の減損リスクに備えるため、積立を行う。取り崩しは外部出資の減損損失発生年度に減損損失相当額の範囲内で理事会の決議により取り崩す。	50,000,000
営農経済事業積立金	地域農業振興に向けた財源として積立を行う。取り崩しは、担い手育成に関するもの等、毎年度の経費相当額および農産物の販売事業から生じたものや生産者が被る不慮の事故・自然災害への対応等、毎年度の農業に関するリスク管理経費相当額を理事会の決議により必要と認められた額を取り崩す。	300,000,000

IV. 次期繰越剰余金には、営農指導、生活・文化改善の事業の費用に充てるための繰越額が次のとおり含まれています。

令和3年度	14,000,000 円
令和4年度	17,000,000 円

部門別損益計算書

■令和3年度
(令和3年2月1日から令和4年1月31日まで)

(単位:円)

区 分	計	信用事業	共済事業	農業関連事業	生活その他事業	営農指導事業	共通管理費等
事業収益 ①	4,216,186,778	173,229,851	150,129,242	3,717,491,085	164,303,555	11,033,045	
事業費用 ②	2,970,098,472	30,587,966	18,280,849	2,768,116,816	108,247,503	44,865,338	
事業総利益 ③=①-②	1,246,088,306	142,641,885	131,848,393	949,374,269	56,056,052	▲ 33,832,293	
事業管理費 ④	891,583,276	76,105,872	101,186,518	611,376,947	19,238,552	83,675,387	
(うち減価償却資産) ⑤	92,281,668	7,862,398	8,499,142	64,366,463	7,890,083	3,663,582	
(うち人件費) ⑤'	547,155,877	51,954,121	71,924,497	360,753,033	8,158,814	54,365,412	
うち共通管理費 ⑥		16,971,566	18,346,024	138,939,760	17,031,325	7,908,112	▲ 199,196,787
(うち減価償却資産) ⑦		7,862,398	8,499,142	64,366,463	7,890,083	3,663,582	▲ 92,281,668
(うち人件費) ⑦'		6,633,787	7,171,030	54,308,290	6,657,145	3,091,095	▲ 77,861,347
事業利益 ⑧=③-④	354,505,030	66,536,013	30,661,875	337,997,322	36,817,500	▲ 117,507,680	
事業外収益 ⑨	19,214,226	1,599,187	2,238,006	13,387,028	251,765	1,738,240	
うち共通分 ⑩		202,045	218,408	1,654,067	202,756	94,145	▲ 2,371,421
事業外費用 ⑪	1,268,290	108,339	118,016	883,375	106,317	52,243	
うち共通分 ⑫		105,861	114,434	866,641	106,233	49,327	▲ 1,242,496
経常利益 ⑬=⑧+⑨-⑪	372,450,966	68,026,861	32,781,865	350,500,975	36,962,948	▲ 115,821,683	
特別利益 ⑭	41,077	3,884	5,435	26,928	608	4,222	
うち共通分 ⑮		491	530	4,017	492	229	▲ 5,759
特別損失 ⑯	4,462,380	380,196	410,985	3,112,510	381,533	177,156	
うち共通分 ⑰		380,195	410,985	3,112,510	381,533	177,156	▲ 4,462,379
税引前当期利益 ⑱=⑬+⑭-⑯	368,029,663	67,650,549	32,376,315	347,415,393	36,582,023	▲ 115,994,617	
営農指導事業分配賦額 ⑲		8,711,196	8,050,026	95,173,583	4,059,812	▲ 115,994,617	
営農指導事業分配賦額後税引前当期利益 ⑳=⑱-⑲	368,029,663	58,939,353	24,326,289	252,241,810	32,522,211		

■令和4年度
(令和4年2月1日から令和5年1月31日まで)

(単位:円)

区 分	計	信用事業	共済事業	農業関連事業	生活その他事業	営農指導事業	共通管理費等
事業収益 ①	4,329,831,237	174,748,465	140,226,969	3,888,995,831	101,069,313	24,790,659	
事業費用 ②	3,035,884,654	31,570,281	15,392,770	2,903,471,949	41,754,426	43,695,228	
事業総利益 ③=①-②	1,293,946,583	143,178,184	124,834,199	985,523,882	59,314,887	▲ 18,904,569	
事業管理費 ④	875,161,809	85,601,440	100,546,661	605,981,786	46,066,194	36,965,728	
(うち減価償却資産) ⑤	100,214,935	9,219,774	10,813,191	68,877,725	7,536,163	3,768,082	
(うち人件費) ⑤'	525,953,799	49,300,856	58,669,842	361,129,862	37,149,345	19,703,894	
うち共通管理費 ⑥		56,334,360	66,070,407	420,854,410	46,047,216	23,023,608	▲ 612,330,001
(うち減価償却資産) ⑦		9,219,774	10,813,191	68,877,725	7,536,163	3,768,082	▲ 100,214,935
(うち人件費) ⑦'		45,425,449	53,276,151	339,357,725	37,130,367	18,565,183	▲ 493,754,875
事業利益 ⑧=③-④	418,784,774	57,576,744	24,287,538	379,542,096	13,248,693	▲ 55,870,297	
事業外収益 ⑨	20,078,857	2,176,534	3,591,778	13,036,604	130,417	1,143,524	
うち共通分 ⑩		159,542	187,115	1,191,882	130,408	65,204	▲ 1,734,151
事業外費用 ⑪	2,777,243	256,129	301,570	1,907,086	207,492	104,966	
うち共通分 ⑫		253,847	297,718	1,896,402	207,492	103,746	▲ 2,759,205
経常利益 ⑬=⑧+⑨-⑪	436,086,388	59,497,149	27,577,746	390,671,614	13,171,618	▲ 54,831,739	
特別利益 ⑭	96,201,000	11,844,768	19,546,600	57,876,842	709,686	6,223,104	
うち共通分 ⑮		868,233	1,018,287	6,486,269	709,686	354,843	▲ 9,437,318
特別損失 ⑯	96,216,001	11,846,617	19,549,647	57,885,865	709,797	6,224,075	
うち共通分 ⑰		868,369	1,018,445	6,487,280	709,797	354,899	▲ 9,438,790
税引前当期利益 ⑱=⑬+⑭-⑯	436,071,387	59,495,300	27,574,699	390,662,591	13,171,507	▲ 54,832,710	
営農指導事業分配賦額 ⑲		5,993,215	5,220,074	42,489,867	1,129,554	▲ 54,832,710	
営農指導事業分配賦額後税引前当期利益 ⑳=⑱-⑲	436,071,387	53,502,085	22,354,625	348,172,724	12,041,953		

財務諸表等の正確性等にかかる確認

確認書

1. 私は、当JAの令和4年2月1日から令和5年1月31日までの事業年度にかかるディスクロージャー誌に記載した内容のうち、財務諸表作成に関するすべての重要な点において、農業協同組合法施行規則に準拠して適正に表示されていることを確認いたしました。
2. この確認を行うにあたり、財務諸表が適正に作成される以下の体制が整備され、有効に機能していることを確認しております。
 - (1) 業務分掌と所管部署が明確化され、各部署が適切に業務を遂行する体制が整備されております。
 - (2) 業務の実施部署から独立した内部監査部門が内部管理体制の適切性・有効性を検証しており、重要な事項については理事会等に適切に報告されております。
 - (3) 重要な経営情報については、理事会等へ適切に付議・報告されております。

令和5年5月30日
茨城旭村農業協同組合
代表理事組合長 新堀 喜一

会計監査人の監査

令和3年度及び令和4年度の貸借対照表、損益計算書、剰余金処分計算書及び注記表は、農業協同組合法第37条の2第3項の規定に基づき、みのり監査法人の監査を受けております。

損益の状況

1. 最近の5事業年度の主要な経営指標

(単位:円、口、人、%)

項目	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
経常収益	3,897,607,777	3,974,671,911	4,129,075,655	4,216,186,778	4,329,831,237
信用事業収益	169,906,866	168,566,450	170,516,773	173,229,851	174,748,465
共済事業収益	146,833,165	143,565,194	144,148,840	150,129,242	140,226,969
農業関連事業収益	3,401,550,745	3,488,723,565	3,646,545,022	3,717,491,085	3,888,995,831
その他事業収益	179,317,001	173,826,702	167,865,020	175,336,600	125,859,972
経常利益	243,960,142	186,238,262	283,247,822	372,450,966	436,086,388
当期剰余金	165,160,267	128,980,866	210,081,185	278,694,585	325,234,626
出資金	777,288,000	795,284,000	826,998,000	844,599,000	857,139,000
(出資口数)	(259,096)	(265,428)	(275,666)	(281,533)	(285,713)
純資産額	2,544,457,293	2,657,026,081	2,857,284,388	3,114,767,655	3,406,277,253
総資産額	26,005,998,715	27,405,390,674	28,840,301,805	30,007,762,877	31,929,908,778
貯金等残高	22,535,107,210	23,737,861,629	24,891,074,117	25,840,977,939	27,524,418,749
貸出金残高	3,399,014,756	3,833,328,221	3,834,064,815	4,631,336,793	4,892,831,922
剰余金配当金額	36,947,078	36,720,878	41,491,318	45,368,028	49,290,343
出資配当金	16,849,865	15,662,005	16,899,932	17,461,172	17,679,483
事業利用分量配当金	20,097,213	21,058,873	24,591,386	27,906,856	31,610,860
職員数	88	85	82	82	78
単体自己資本比率	27.11%	26.75%	26.74%	27.17%	28.23%

- (注) 1. 経常収益は各事業収益の合計額を表しています。
 2. 当期剰余金は、銀行等の当期利益に相当するものです。
 3. 信託業務の取り扱いはありません。
 4. 「単体自己資本比率」は、「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年金融庁・農水省告示第2号)に基づき算出しております。

2. 利益総括表

(単位:円、%)

項目	令和3年度	令和4年度	増減
資金運用収支	154,561,831	159,315,621	4,753,790
役務取引等収支	1,767,374	1,824,501	57,127
その他信用事業収支	▲13,687,320	▲17,961,938	▲4,274,618
信用事業粗利益	156,329,205	160,881,546	4,552,341
(信用事業粗利益率)	(0.59%)	(0.58%)	(▲0.01%)
事業粗利益	1,307,381,468	1,369,646,072	62,264,604
(事業粗利益率)	(4.42%)	(4.39%)	(▲0.03%)
事業純益	414,821,412	493,223,869	78,402,457
実質事業純益	415,798,192	494,484,263	78,686,071
コア事業純益	415,798,192	494,484,263	78,686,071
コア事業純益 (投資信託解約損益を除く。)	415,798,192	494,484,263	78,686,071

3. 資金運用収支の内訳

(単位:円、%)

項目	令和3年度			令和4年度		
	平均残高	利息	利回り	平均残高	利息	利回り
資金運用勘定	26,201,275,560	161,132,426	0.61%	27,621,924,272	164,655,210	0.60%
うち預金	21,796,218,562	114,552,191	0.53%	22,730,583,579	116,320,609	0.51%
うち貸出金	4,405,056,998	46,579,516	1.06%	4,891,340,693	48,333,913	0.99%
資金調達勘定	25,654,598,438	6,570,595	0.03%	27,021,705,514	5,339,589	0.02%
うち貯金・定期積金	25,500,637,170	6,222,379	0.02%	26,871,563,010	4,874,189	0.02%
うち借入金	153,961,268	20,004	0.01%	150,142,504	—	0.00%
経費率			0.29%			0.31%
総資金利ざや			0.30%			0.27%

(注)

1. 総資金利ざや＝資金運用利回り－資金調達原価(資金調達利回り＋経費率)
2. 資金運用勘定の利息欄の預金には、信連からの事業利用分量配当金等奨励金が含まれています。

4. 受取・支払利息の増減額

(単位:円)

項目	令和3年度増減額	令和4年度増減額
受取利息	▲ 2,980,915	3,522,784
うち預金	▲ 1,459,304	1,768,418
うち貸出金	▲ 1,521,496	1,754,397
支払利息	▲ 3,913,006	▲ 1,368,194
うち貯金・定期積金	▲ 3,933,010	▲ 1,348,190
うち借入金	20,004	▲ 20,004
差引	932,091	4,890,978

(注)

1. 増減額は前年度対比です。
2. 受取利息の預金には、信連からの事業利用分量配当金等奨励金が含まれています。

経営諸指標

1. 利益率

(単位:%)

項目	令和3年度	令和4年度	増減
総資産経常利益率	1.26%	1.40%	0.14%
資本経常利益率	13.12%	14.10%	0.98%
総資産当期純利益率	0.94%	1.04%	0.10%
資本当期純利益率	9.82%	10.52%	0.70%

- (注) 1. 総資産経常利益率＝経常利益／総資産(債務保証見返を除く)平均残高×100
 2. 資本経常利益率＝経常利益／純資産勘定平均残高×100
 3. 総資産当期純利益率
 ＝当期剰余金(税引後)／総資産(債務保証見返を除く)平均残高×100
 4. 資本当期純利益率＝当期剰余金(税引後)／純資産勘定平均残高×100

2. 貯貸率・貯証率

(単位:%)

区分		令和3年度	令和4年度	増減
貯貸率	期末	15.40%	17.77%	2.37%
	期中平均	17.27%	18.20%	0.93%
貯証率	期末	0.00%	0.00%	0.00%
	期中平均	0.00%	0.00%	0.00%

- (注) 1. 貯貸率(期末)＝貸出金残高／貯金残高×100
 2. 貯貸率(期中平均)＝貸出金平均残高／貯金平均残高×100
 3. 貯証率(期末)＝有価証券残高／貯金残高×100
 4. 貯証率(期中平均)＝有価証券平均残高／貯金平均残高×100

3. 職員一人当たり及び一店舗当たりの指標

(単位:円)

項目		令和3年度	令和4年度
信用事業	一職員当たり貯金残高	5,066,858,419	6,713,272,865
	一店舗当たり貯金残高	25,840,977,939	27,524,418,749
	一職員当たり貸出金残高	2,013,624,692	3,494,879,944
	一店舗当たり貸出金残高	4,631,336,793	4,892,831,922
共済事業	一職員当たり長期共済保有高	6,598,146,961	6,371,105,583
	一店舗当たり長期共済保有高	61,362,766,741	59,251,281,931
経済事業	一職員当たり購買品供給高	139,401,797	135,829,052
	一職員当たり販売品販売高	437,548,927	486,042,189

- (注) 各事業の職員数は担当職員数、また店舗数は業務を実施している本店、事業所等の数で計算しております。

貸倒引当金の期末残高及び貸出金償却の額

貸倒引当金の期末残高及び期中増減額

(単位:円)

区 分	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	
			目的使用	その他		
令和3年度	一般貸倒引当金	3,291,664	976,780	—	3,291,664	976,780
	個別貸倒引当金	19,165,215	15,923,804	—	19,165,215	15,923,804
	合 計	22,456,879	16,900,584	—	22,456,879	16,900,584
令和4年度	一般貸倒引当金	976,780	1,260,394	—	976,780	1,260,394
	個別貸倒引当金	15,923,804	9,135,484	—	15,923,804	9,135,484
	合 計	16,900,584	10,395,878	—	16,900,584	10,395,878

貸出金償却の額

(単位:円)

	令和3年度	令和4年度
貸出金償却額	—	—

(注)貸出金償却額は個別貸倒引当金の目的使用による取崩額との相殺前の金額を記載しております。

信用事業(貯金に関する指標)

科目別貯金平均残高

(単位:円、%)

種 類	令和3年度		令和4年度		平均残高 増減
	平均残高	構成比	平均残高	構成比	
流動性貯金	10,612,767,436	41.6%	11,958,221,252	44.5%	1,345,453,816
定期性貯金	14,887,869,734	58.4%	14,913,341,758	55.5%	25,472,024
合 計	25,500,637,170	100.0%	26,871,563,010	100.0%	1,370,925,840

定期貯金残高

(単位:円、%)

種 類	令和3年度		令和4年度		残高増減
	残 高	構成比	残 高	構成比	
定期貯金	15,026,621,305	100.0%	15,101,191,962	100.0%	74,570,657
うち固定金利定期	15,026,621,305	100.0%	15,101,191,962	100.0%	74,570,657

(注)固定金利定期:預入時に満期日までの利率が確定する定期貯金

信用事業(貸出金等に関する指標)

科目別貸出金平均残高

(単位:円、%)

種 類	令和3年度		令和4年度		平均残高 増減
	平均残高	構成比	平均残高	構成比	
手形貸付金	1,003,740	0.0%	887,793	0.0%	△ 115,947
証書貸付金	4,258,207,435	96.7%	4,788,749,784	97.9%	530,542,349
当座貸越	40,421,165	0.9%	37,249,175	0.8%	△ 3,171,990
金融機関貸付	105,424,658	2.4%	65,424,657	1.3%	△ 40,000,001
合 計	4,405,056,998	100.0%	4,892,311,409	100.0%	487,254,411

貸出金の金利条件別残高内訳

(単位:円、%)

種 類	令和3年度		令和4年度		残高増減
	残 高	構成比	残 高	構成比	
固定金利貸出	2,693,095,635	58.2%	2,978,997,025	60.9%	285,901,390
変動金利貸出	1,353,582,970	29.2%	1,490,304,695	30.5%	136,721,725
その他	584,658,188	12.6%	423,530,202	8.7%	△ 161,127,986
合 計	4,631,336,793	100.0%	4,892,831,922	100.0%	261,495,129

(注)「その他」は当座貸越、無利息等の固定、変動の区分がないもの

貸出金の担保別内訳残高

(単位:円)

種 類	令和3年度	令和4年度	増 減
貯金・定期積金等	223,935,563	218,195,780	△ 5,739,783
不動産	50,174,333	53,433,303	3,258,970
その他担保	465,284	310,463	△ 154,821
小 計	274,575,180	271,939,546	△ 2,635,634
農業信用基金協会保証	2,687,689,627	2,643,867,571	△ 43,822,056
小 計	2,687,689,627	2,643,867,571	△ 43,822,056
信用	1,669,071,986	1,977,024,805	307,952,819
小 計	1,669,071,986	1,977,024,805	307,952,819
合 計	4,631,336,793	4,892,831,922	261,495,129

債務保証見返額の担保別内訳残高

該当する取引はございません。

貸出金の用途別内訳残高

(単位:円、%)

種 類	令和3年度		令和4年度		残高増減
	残 高	構成比	残 高	構成比	
設備資金	2,804,534,927	60.6%	2,802,798,857	57.3%	△ 1,736,070
運転資金	1,826,801,866	39.4%	2,090,033,065	42.7%	263,231,199
合 計	4,631,336,793	100.0%	4,892,831,922	100.0%	261,495,129

貸出金の業種別残高

(単位:円、%)

種 類	令和3年度		令和4年度		残高増減
	残 高	構成比	残 高	構成比	
農業	1,434,372,582	31.0%	1,435,829,431	29.3%	1,456,849
製造業	43,895,800	0.9%	63,031,831	1.3%	19,136,031
建設業	85,317,902	1.8%	72,906,830	1.5%	△ 12,411,072
電気・ガス・熱供給・水道業	28,093,212	0.6%	27,320,035	0.6%	△ 773,177
運輸・通信業	22,322,829	0.5%	21,668,964	0.4%	△ 653,865
卸売・小売業・飲食店	33,739,043	0.7%	32,597,681	0.7%	△ 1,141,362
サービス業	189,466,660	4.1%	160,777,529	3.3%	△ 28,689,131
金融・保険業	108,748,323	2.3%	67,521,102	1.4%	△ 41,227,221
地方公共団体	1,565,495,000	33.8%	1,918,315,000	39.2%	352,820,000
その他	1,119,885,442	24.2%	1,092,863,519	22.3%	△ 27,021,923
合 計	4,631,336,793	100.0%	4,892,831,922	100.0%	261,495,129

主要な農業関係の貸出金残高

1) 営農類型別

(単位:円)

種 類	令和3年度	令和4年度	増 減
農業	1,002,773,749	853,692,920	△ 149,080,829
野菜・園芸	432,284,037	356,530,665	△ 75,753,372
その他農業	570,489,712	497,162,255	△ 73,327,457
合計	1,002,773,749	853,692,920	△ 149,080,829

(注)1. 農業関係の貸出金とは、農業者、農業法人および農業関連団体等に対する農業生産・農業経営に必要な資金や、農産物の生産・加工・流通に係る事業に必要な資金等が該当します。

なお、前記『貸出金の業種別残高』の「農業」は、農業者や農業法人等に対する貸出金の残高です。

2. 「その他農業」には、複合経営で主たる業種が明確に位置づけられない者、農業サービス業、農業所得が従となる農業者等が含まれています。

2) 資金種類別

〔貸出金〕

(単位:円)

種 類	令和3年度	令和4年度	増 減
プロパー資金	916,357,749	794,760,920	△ 121,596,829
農業制度資金	86,416,000	58,932,000	△ 27,484,000
農業近代化資金	74,978,000	50,304,000	△ 24,674,000
その他制度資金	11,438,000	8,628,000	△ 2,810,000
合計	1,002,773,749	853,692,920	△ 149,080,829

(注)1. 「プロパー資金」とは、当組合原資の資金を融資しているもののうち、制度資金以外のものをいいます。

2. 「農業制度資金」には、①地方公共団体が直接的または間接的に融資するもの、②地方公共団体が利子補給等を行うことでJAが低利で融資するもの、③日本政策金融公庫が直接融資するものがあり、ここでは①の転貸資金と②を対象としています。

3. 「その他制度資金」には、農業経営改善促進資金(スーパーS資金)や農業経営負担軽減支援資金などが該当します。

〔受託貸付金〕

該当する取引はございません。

農協法に基づく開示債権の状況及び金融再生法開示債権区分に基づく債権の保全状況

(単位:円)

債権区分	債権額	保 全 額				
		担 保	保 障	引 当	合 計	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	令和3年度	1,393,104	434,086	959,018	-	1,393,104
	令和4年度	648,076	148,398	499,678	-	648,076
危険債権	令和3年度	12,264,630	10,593,035	999,699	68,770	11,661,504
	令和4年度	10,703,200	9,245,115	998,285	-	10,243,400
要管理債権	令和3年度	-	-	-	-	-
	令和4年度	-	-	-	-	-
三月以上延滞債権	令和3年度	-	-	-	-	-
	令和4年度	-	-	-	-	-
貸出条件緩和債権	令和3年度	-	-	-	-	-
	令和4年度	-	-	-	-	-
小 計	令和3年度	13,657,734	11,027,121	1,958,717	68,770	13,054,608
	令和4年度	11,351,276	9,393,513	1,497,963	-	10,891,476
正常債権	令和3年度	4,622,822,962				
	令和4年度	4,886,414,427				
合 計	令和3年度	4,636,480,696				
	令和4年度	4,897,765,703				

(注)

1. 破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権をいいます。

2. 危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受け取りができない可能性の高い債権をいいます。

3. 要管理債権

4. 「三月以上延滞債権」に該当する貸出金と5. 「貸出条件緩和債権」に該当する貸出金の合計をいいます。

4. 三月以上延滞債権

元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から三月以上遅延している貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権及び危険債権に該当しないものをいいます。

5. 貸出条件緩和債権

債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で、破産更生債権及びこれらに準ずる債権、危険債権及び三月以上延滞債権に該当しないものをいいます。

6. 正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものとして、上記に掲げる債権以外のものに区分されるさいけんをいいます。

元本補てん契約のある信託に係る農協法に基づく開示債権の状況

該当する取引はございません。

信用事業(内国為替取扱実績)

(単位:件、円)

種 類	令和3年度		令和4年度		
	仕 向	被仕向	仕 向	被仕向	
送金・振込為替	件 数	4,052	20,042	4,295	20,256
	金 額	6,215,956,028	4,532,296,005	4,703,863,814	4,916,658,161
代金取立為替	件 数	—	1	—	—
	金 額	—	1,042,500	—	—
雑 為 替	件 数	73	146	55	145
	金 額	15,675,094	48,005,164	9,547,799	53,399,166
合 計	件 数	4,125	20,189	4,150	20,401
	金 額	6,231,631,122	4,581,343,669	4,713,411,613	4,970,057,327

信用事業(有価証券に関する指標)

種類別有価証券平均残高

期末残高はございません。

商品有価証券種類別平均残高

該当する取引はございません。

有価証券残存期間別残高

期末残高はございません。

信用事業(有価証券等の時価情報等)

有価証券の時価情報等

期末残高はございません。

金銭の信託の時価情報等

該当する取引はございません。

デリバティブ取引・金融等デリバティブ取引・有価証券関連店頭デリバティブ取引

該当する取引はございません。

共済事業

長期共済新契約高・長期共済保有高

(単位:円)

種 類		令和3年度		令和4年度	
		新契約高	保有高	新契約高	保有高
生命系	終身共済	309,420,000	19,057,799,480	497,970,000	18,518,792,880
	定期生命共済	30,000,000	343,400,000	—	336,000,000
	養老生命共済	147,020,000	11,543,017,067	105,000,000	10,043,447,956
	うちこども共済	58,000,000	2,724,300,000	51,000,000	2,460,300,000
	医療共済	1,000,000	77,000,000	1,000,000	69,000,000
	がん共済	—	87,500,000	—	87,500,000
	定期医療共済	—	419,700,000	—	382,200,000
	介護共済	5,000,000	233,240,194	7,760,901	241,001,095
建物系		2,757,280,000	29,601,110,000	2,460,900,000	29,573,340,000
合 計		3,249,720,000	61,362,766,741	3,072,630,901	59,251,281,931

(注)金額は、保障金額(がん共済はがん死亡共済金額、医療共済及び定期医療共済は死亡給付金額(付加された定期特約金額等を含む)、年金共済は付加された定期特約金額)を表示しています。

医療系共済の入院共済金額保有高

(単位:円)

種 類	令和3年度		令和4年度	
	新契約高	保有高	新契約高	保有高
医療共済	179,000	8,738,500	—	7,569,500
	22,892,000	27,530,000	49,247,000	86,280,000
がん共済	65,000	2,540,000	70,000	2,575,000
定期医療共済	—	724,000	—	697,000
合 計	23,136,000	39,532,500	49,317,000	97,121,500

(注)「種類」欄は主たる共済種類ごとに記載し、「金額」欄は当該共済種類ごとに共済金額を記載しています。なお、同一の共済種類に主たる共済金額が複数ある場合は、新たに欄を追加して記載するとともに、共済種類ごとの合計欄を記載しています。

介護共済・生活障害共済・特定重度疾病共済の共済金額保有高

(単位:円)

種 類	令和3年度		令和4年度	
	新契約高	保有高	新契約高	保有高
介護共済	6,802,740	345,753,463	9,000,000	353,753,463
認知症共済			9,000,000	9,000,000
生活障害共済(一時金型)	—	22,000,000	22,000,000	44,000,000
生活障害共済(定期年金型)	—	—	2,400,000	1,200,000
特定重度疾病共済	55,000,000	63,000,000	58,000,000	111,000,000
合 計	61,802,740	430,753,463	100,400,000	518,953,463

(注)「種類」欄は主たる共済種類ごとに記載し、「金額」欄は当該共済種類ごとに共済金額を記載しています。

年金共済の年金保有高

(単位:円)

種 類	令和3年度		令和4年度	
	新契約高	保有高	新契約高	保有高
年金開始前	175,743,647	613,694,477	18,416,830	614,739,794
年金開始後	—	60,009,970	—	63,240,424
合 計	175,743,647	673,704,447	18,416,830	677,980,218

(注)「金額」欄は、年金年額について記載しています。

短期共済新契約高

(単位:円)

種 類	令和3年度		令和4年度	
	金額	掛金	金額	掛金
火災共済	7,365,260,000	7,477,600	8,118,160,000	9,247,760
自動車共済		167,176,666		167,613,517
傷害共済	671,000,000	156,671	514,000,000	194,457
賠償責任共済		100,640		109,100
自賠責共済		28,902,750		26,488,880
合 計		203,814,327		203,653,714

(注)「種類」欄は主たる共済種類ごとに記載し、「金額」欄は当該共済種類ごとに保障金額(死亡保障又は火災保障を伴わない共済の金額欄は斜線。)を記載しています。

購買事業

買取購買品取扱実績

(単位:円)

種 類	令和3年度		令和4年度		
	供給高	粗収益(手数料)	供給高	粗収益(手数料)	
生産資材	肥 料	406,648,058	45,900,509	447,045,121	63,581,761
	農業機械	221,928,993	26,009,873	217,013,529	25,232,316
	農 薬	329,491,974	28,843,040	330,697,867	27,481,036
	自動車	16,429,418	239,388	8,926,577	206,647
	燃 料	3,520,895	980,423	3,916,083	965,104
	保温資材	234,893,288	22,133,944	191,219,471	16,306,806
	包装資材	660,454,677	56,501,702	721,945,178	63,210,729
	種苗・素畜	268,944,045	21,301,239	270,549,062	21,478,207
小 計	2,142,311,348	201,910,118	2,191,312,888	218,462,606	
生活物資	生鮮食品	1,820,543	165,861	2,089,019	303,989
	一般食品	7,783,126	1,424,510	7,065,716	1,284,970
	日用保健雑貨	8,812,840	841,162	11,122,086	691,872
	小 計	18,416,509	2,431,533	20,276,821	2,280,831
合 計	2,160,727,857	204,341,651	2,211,589,709	220,743,437	

(注)令和4年度の供給高は総額で記載しており、損益計算書における金額とは一致しません。

販売事業

受託販売品取扱実績

(単位:円)

種 類	令和3年度		令和4年度	
	取扱高	手数料	取扱高	手数料
米	13,386,172	549,755	14,448,462	155,046
麦	15,029	—	—	—
野菜	7,254,429,921	147,244,267	8,051,554,754	169,706,828
果実	4,001,829,859	79,739,342	3,983,654,147	83,965,560
畜産物	218,548,031	2,211,836	225,711,198	2,268,532
直売所	284,740,633	34,733,747	304,525,240	37,313,611
合 計	11,772,949,645	264,478,947	12,579,893,801	293,409,577

買取販売品取扱実績

(単位:円)

種 類	令和3年度		令和4年度	
	販売高	粗収益	販売高	粗収益
米	9,186,179	1,401,076	6,307,800	1,141,817
野菜	39,890,442	8,282,521	43,625,423	9,201,723
果実	648,118,161	238,697,466	736,333,180	230,353,187
合 計	697,194,782	248,381,063	786,266,403	240,696,727

保管事業

(単位:円)

項 目		令和3年度	令和4年度
収 益	保管料	49,299	41,611
	その他	81,844	89,507
	計	131,143	131,118
費用	計	—	—
差 引		131,143	131,118

利用事業取扱実績

(単位:円)

項目		令和3年度	令和4年度
収益	ゆうパック利用	65,718,371	63,176,859
	葬祭事業	31,889,505	29,589,664
	固定資産利用	49,768	—
	精米機利用	774,000	735,906
	機械利用	458,000	330,797
	計	98,889,644	93,833,226
費用	ゆうパック利用	41,029,102	39,408,861
	葬祭事業	30,418,448	27,771,378
	機械利用	76,708	78,380
	計	71,524,258	67,258,619
差引		27,365,386	26,574,607

(注) 葬祭事業及びゆうパック利用の収益・費用は総額で記載しており、損益計算書における金額とは一致しません。

その他の事業取扱実績

(単位:円)

項目		令和3年度	令和4年度
収益	直売所買取売上高	51,923,832	59,772,209
	直売所委託売上手数料	12,279,761	13,594,334
	直売所雑収入	1,210,318	1,049,783
	計	65,413,911	74,416,326
費用	直売所買取受入高	36,723,245	41,676,046
	計	36,723,245	41,676,046
差引		28,690,666	32,740,280

指導事業取扱実績

(単位:円)

項目		令和3年度	令和4年度
収益	指導事業補助金	532,500	1,203,600
	農業経営支援事業収入	10,270,084	23,373,503
	実費収入	230,461	213,556
	計	11,033,045	24,790,659
費用	営農改善費	38,155,671	34,167,733
	農業経営支援事業費用	5,067,399	6,936,288
	生活改善費	648,495	1,454,996
	教育広報費	993,773	1,136,211
	計	44,865,338	43,695,228
差引		△ 33,832,293	△ 18,904,569



自己資本の充実

の状況編

金額・比率は単位未満を切り捨てにより表示しております。
よって、合計が一致しない場合があります。

自己資本の構成に関する事項

(単位:円、%)

項 目	令和4年度	令和3年度
＜コア資本にかかる基礎項目＞		
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る組合員資本の額	3,356,986,910	3,069,399,627
うち、出資金及び資本準備金の額	857,139,000	844,599,000
うち、再評価積立金の額	-	-
うち、利益剰余金の額	2,553,122,253	2,273,255,655
うち、外部流出予定額(△)	49,290,343	45,368,028
うち、上記以外に該当するものの額	3,984,000	3,087,000
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	1,260,394	976,780
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	1,260,394	976,780
うち、適格引当金コア資本算入額	-	-
適格旧資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
うち、回転出資金の額	-	-
うち、上記以外に該当するものの額	-	-
公的機関による資本の増強に関する措置を通じて発行された資本調達手段の額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額の四十五パーセントに相当する額のうち、コア資本に係る基礎項目の額に含まれる額	-	-
コア資本にかかる基礎項目の額(イ)	3,358,247,304	3,070,376,407
＜コア資本にかかる調整項目＞		
無形固定資産(モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。)の額の合計額	10,775,433	22,673,015
うち、のれんに係るものの額	-	-
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	10,775,433	22,673,015
繰延税金資産(一時差異に係るものを除く。)の額	-	-
適格引当金不足額	-	-
証券化取引に伴い増加した自己資本に相当する額	-	-
負債の時価評価により生じた時価評価差額であって自己資本に算入される額	-	-
前払年金費用の額	-	-
自己保有普通出資等(純資産の部に計上されるものを除く。)の額	-	-
意図的に保有している他の金融機関等の対象資本調達手段の額	-	-
少数出資金融機関等の対象普通出資等の額	-	-
特定項目に係る十パーセント基準超過額	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-
特定項目に係る十五パーセント基準超過額	-	-
うち、その他金融機関等の対象普通出資等に該当するものに関連するものの額	-	-
うち、モーゲージ・サービシング・ライツに係る無形固定資産に関連するものの額	-	-
うち、繰延税金資産(一時差異に係るものに限る。)に関連するものの額	-	-
コア資本に係る調整項目の額(ロ)	10,775,433	22,673,015
＜自己資本＞		
自己資本の額(イ)－(ロ) (ハ)	3,347,471,871	3,047,703,392
＜リスク・アセット等＞		
信用リスク・アセットの額の合計額	9,456,410,741	8,936,406,608
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△ 60,188,459	△ 120,324,610
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△ 60,188,459	△ 120,324,610
うち、土地再評価額と再評価直前の帳簿価額の差額に係るものの額	-	-
うち、上記以外に該当するものの額	-	-
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を八パーセントで除して得た額	2,397,635,775	2,280,259,250
信用リスク・アセット調整額		
オペレーショナル・リスク相当額調整額		
リスク・アセット等の額の合計額(ニ)	11,854,046,516	11,216,665,858
＜自己資本比率＞		
自己資本比率(ハ)／(ニ)	28.23%	27.17%

(注)

- 「農業協同組合等がその経営の健全性を判断するための基準」(平成18年金融庁・農水省告示第2号)に基づき算出しています。
- 当JAは、信用リスク・アセット額の算出にあたっては標準的手法、適格金融資産担保の適用については信用リスク削減手法の簡便手法を、オペレーショナル・リスク相当額の算出にあたっては基礎的手法を採用しています。
- 当JAが有するすべての自己資本とリスクを対比して、自己資本比率を計算しています。

自己資本の充実度に関する事項

信用リスクに対する所要自己資本の額及び区分ごとの内訳

(単位:円)

信用リスク・アセット (標準的手法)	令和3年度			令和4年度		
	エクスポージャーの期末残高	リスク・アセット額 a	所要自己資本額 b=a×4%	エクスポージャーの期末残高	リスク・アセット額 a	所要自己資本額 b=a×4%
現金	113,272,734	-	-	174,078,844	-	-
我が国の中央政府及び中央銀行向け	-	-	-	-	-	-
外国の中央政府及び中央銀行向け	-	-	-	-	-	-
国際決済銀行等向け	-	-	-	-	-	-
我が国の地方公共団体向け	1,566,180,199	-	-	1,919,179,469	-	-
外国の中央政府等以外の公共部門向け	-	-	-	-	-	-
国際開発銀行向け	-	-	-	-	-	-
地方公共団体金融機構向け	-	-	-	-	-	-
我が国の政府関係機関向け	-	-	-	-	-	-
地方三公社向け	-	-	-	-	-	-
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	21,984,497,555	4,396,899,595	175,875,984	23,404,909,926	4,680,982,078	187,239,283
法人等向け	11,168,168	6,463,521	258,541	8,775,442	5,672,079	226,883
中小企業等向け及び個人向け	58,312,827	21,147,644	845,906	49,946,624	17,396,464	695,859
抵当権付住宅ローン	2,746,778	812,335	32,493	1,135,187	195,489	7,820
不動産取得等事業向け	-	-	-	-	-	-
三月以上延滞等	27,906,176	16,599,098	663,964	18,633,699	13,525,554	541,022
取立未済手形	5,561,130	1,112,226	44,489	2,670,530	534,106	21,364
信用保証協会等保証付	2,718,075,186	262,301,694	10,492,068	2,671,651,094	257,717,647	10,308,706
株式会社地域経済活性化支援機構等による保証付	-	-	-	-	-	-
共済約款貸付	-	-	-	-	-	-
出資等	156,161,839	156,161,839	6,246,474	156,161,839	156,161,839	6,246,474
(うち出資等のエクスポージャー)	156,161,839	156,161,839	6,246,474	156,161,839	156,161,839	6,246,474
(うち重要な出資のエクスポージャー)	-	-	-	-	-	-
上記以外	3,358,107,854	4,195,233,266	167,809,331	3,566,582,522	4,384,413,944	175,376,558
(うち他の金融機関等の対象資本調達手段のうち対象普通出資等及びその他外部TLAC関連調達手段に該当するもの以外のものに係るエクスポージャー)	-	-	-	-	-	-
(うち農林中央金庫又は農業協同組合連合会の対象資本調達手段に係るエクスポージャー)	609,786,406	1,524,466,016	60,978,641	609,695,639	1,524,239,098	60,969,564
(うち特定項目のうち調整項目に算入されない部分に係るエクスポージャー)	61,524,757	153,811,893	6,152,476	48,221,939	120,554,848	4,822,194
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有している他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段に関するエクスポージャー)	-	-	-	-	-	-
(うち総株主等の議決権の百分の十を超える議決権を保有していない他の金融機関等に係るその他外部TLAC関連調達手段に係る5%基準額を上回る部分に係るエクスポージャー)	-	-	-	-	-	-
(うち上記以外のエクスポージャー)	2,686,796,691	2,516,955,357	100,678,214	2,908,664,944	2,739,619,998	109,584,800
証券化	-	-	-	-	-	-
(うちSTC要件適用分)	-	-	-	-	-	-
(うち非STC適用分)	-	-	-	-	-	-
再証券化	-	-	-	-	-	-
リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャー	-	-	-	-	-	-
(うちルックスルー方式)	-	-	-	-	-	-
(うちマニデート方式)	-	-	-	-	-	-
(うち蓋然性方式250%)	-	-	-	-	-	-
(うち蓋然性方式400%)	-	-	-	-	-	-
(うちフォールバック方式)	-	-	-	-	-	-
経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるものの額	-	-	-	-	-	-
他の金融機関等の対象資本調達手段に係るエクスポージャーに係る経過措置によりリスク・アセットの額に算入されなかったものの額	-	120,324,610	4,812,984	-	60,188,459	2,407,538
標準的手法を適用するエクスポージャー別計	30,001,990,446	8,936,406,608	357,456,264	31,973,725,176	9,456,410,741	378,256,430
CVAリスク相当額÷8%	-	-	-	-	-	-
中央清算機関関連エクスポージャー	-	-	-	-	-	-
合計(信用リスク・アセットの額)	30,001,990,446	8,936,406,608	357,456,264	31,973,725,176	9,456,410,741	378,256,430
オペレーショナル・リスクに対する所要自己資本の額<基礎的手法>	オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額 a	所要自己資本額 b=a×4%	オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額 a	所要自己資本額 b=a×4%		
	2,280,259,250	91,210,370	2,397,635,775	95,905,431		
所要自己資本額計	リスク・アセット等(分母)計 a	所要自己資本額 b=a×4%	リスク・アセット等(分母)計 a	所要自己資本額 b=a×4%		
	11,216,665,858	448,666,634	11,854,046,516	474,161,861		

(注)

- 「リスク・アセット額」の欄には、信用リスク削減効果適用後のリスク・アセット額を原エクスポージャーの種類ごとに記載しています。
- 「エクスポージャー」とは、リスクにさらされている資産(オフ・バランスを含む)のことをいい、具体的には貸出金や有価証券等が該当します。
- 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウェイトが150%になったエクスポージャーのことです。
- 「出資等」とは、出資等エクスポージャー、重要な出資のエクスポージャーが該当します。
- 「証券化(証券化エクスポージャー)」とは、原資産にかかる信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポージャーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引にかかるエクスポージャーのことです。
- 「経過措置によりリスク・アセットの額に算入されるもの」とは、土地再評価差額金に係る経過措置によるリスク・アセットの額および調整項目にかかる経過措置によりなお従前の例によるものとしてリスク・アセットの額に算入したものが該当します。
- 「上記以外」には、未決済取引・その他の資産(固定資産等)・間接清算参加者向け・信用リスク削減手法として用いる保証またはクレジットデリバティブの免責額が含まれます。
- 当JAでは、オペレーショナル・リスク相当額の算出にあたって、基礎的手法を採用しています。
 <オペレーショナル・リスク相当額を8%で除して得た額の算出方法(基礎的手法)>
 (粗利益(正の値の場合に限る)×15%)の直近3年間の合計額 ÷ 8%
 直近3年間のうち粗利益が正の値であった年数

信用リスクに関する事項

標準的手法に関する事項

当JAでは自己資本比率算出にかかる信用リスク・アセット額は告示に定める標準的手法により算出しています。また、信用リスク・アセットの算出にあたって、リスク・ウエイトの判定に当たり使用する格付等は次のとおりです。

(ア)リスク・ウエイトの判定に当たり使用する格付けは、以下の適格格付機関による依頼格付けのみ使用し、非依頼格付は使用しないこととしています。

適格格付機関
株式会社格付投資情報センター(R&I)
株式会社日本格付研究所(JCR)
ムーディーズ・インベスターズ・サービス・インク(Moody's)
S&Pグローバル・レーディング(S&P)
フィッチレーティングスリミテッド(Fitch)

(イ)リスク・ウエイトの判定に当たり使用する適格格付機関の格付またはカントリー・リスク・スコアは、主に以下のとおりです。

エクスポージャー	適格格付機関	カントリーリスク・スコア
金融機関向けエクスポージャー		日本貿易保険
法人等向けエクスポージャー (長期)	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	
法人等向けエクスポージャー (短期)	R&I, Moody's, JCR, S&P, Fitch	

信用リスクに関するエクスポージャー(地域別,業種別,残存期間別)及び三月以上延滞エクスポージャーの期末残高

(単位:円)

	令和3年度				令和4年度					
	信用リスクに関するエクスポージャーの残高	うち貸出金等	うち債券	うち店頭デリバティブ	三月以上延滞エクスポージャー	信用リスクに関するエクスポージャーの残高	うち貸出金等	うち債券	うち店頭デリバティブ	三月以上延滞エクスポージャー
国内	30,001,990,446	4,710,188,239	-	-	27,906,176	31,973,725,176	4,933,312,193	-	-	18,633,699
国外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地域別残高計	30,001,990,446	4,710,188,239	-	-	27,906,176	31,973,725,176	4,933,312,193	-	-	18,633,699
法人	農業	87,290,007	81,688,169	-	-	85,414,593	79,812,755	-	-	-
	林業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	水産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鉱業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	建設・不動産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	運輸・通信業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	金融・保険業	22,644,855,091	80,216,406	-	-	24,062,286,095	40,125,639	-	-	-
	卸売・小売・飲食・サービス業	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本国政府・地方公共団体	1,566,180,199	1,566,180,199	-	-	1,919,179,469	1,919,179,469	-	-	-
	上記以外	105,550,001	-	-	-	105,550,001	-	-	-	-
個人	2,998,598,563	2,982,103,465	-	-	27,906,176	2,907,788,866	2,894,194,330	-	-	18,633,699
その他	2,599,516,585	-	-	-	-	2,893,506,152	-	-	-	-
業種別残高計	30,001,990,446	4,710,188,239	-	-	27,906,176	31,973,725,176	4,933,312,193	-	-	18,633,699
1年以下	21,865,856,944	58,811,055	-	-	/	23,275,084,427	60,281,706	-	-	/
1年超3年以下	416,574,510	416,574,510	-	-	/	375,718,902	375,718,902	-	-	/
3年超5年以下	411,174,342	411,174,342	-	-	/	242,331,798	242,331,798	-	-	/
5年超7年以下	131,595,187	131,595,187	-	-	/	149,135,848	149,135,848	-	-	/
7年超10年以下	368,299,717	368,299,717	-	-	/	559,087,638	559,087,638	-	-	/
10年超	3,294,337,195	3,294,337,195	-	-	/	3,518,124,295	3,518,124,295	-	-	/
期限の定めのないもの	3,514,152,551	29,396,233	-	-	/	3,854,242,268	28,632,006	-	-	/
残存期間別残高計	30,001,990,446	4,710,188,239	-	-	/	31,973,725,176	4,933,312,193	-	-	/
平均残高計	27,762,890,709	4,479,696,587	-	-	/	31,189,969,847	4,937,074,318	-	-	/

(注)

- 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産(自己資本控除となるもの、リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く)並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。
- 「貸出金等」とは、貸出金のほか、コミットメント及びその他のデリバティブ以外のオフ・バランスシート・エクスポージャーを含んでいます。「コミットメント」とは、契約した期間および融資枠の範囲でお客様のご請求に基づき、金融機関が融資を実行する契約のことをいいます。「貸出金等」にはコミットメントの融資可能残額も含めています。
- 「店頭デリバティブ」とは、スワップ等の金融派生商品のうち相対で行われる取引のものをいいます。
- 「三月以上延滞エクスポージャー」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3か月以上延滞しているエクスポージャーをいいます。

貸倒引当金の期末残高及び期中の増減額

(単位:円)

区分	令和3年度					令和4年度				
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高
			目的使用	その他				目的使用	その他	
一般貸倒引当金	3,291,664	976,780	-	3,291,664	976,780	976,780	1,260,394	-	976,780	1,260,394
個別貸倒引当金	19,165,215	15,923,804	-	19,165,215	15,923,804	15,923,804	9,135,484	-	15,923,804	9,135,484

業種別の個別貸倒引当金の期末残高・期中増減額及び貸出金償却の額

(単位:円)

区分	令和3年度						令和4年度					
	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	貸出金償却	期首残高	期中増加額	期中減少額		期末残高	貸出金償却
			目的使用	その他					目的使用	その他		
国内	19,165,215	15,923,804	-	19,165,215	15,923,804	-	15,923,804	9,135,484	-	15,923,804	9,135,484	-
国外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
地域別計	19,165,215	15,923,804	-	19,165,215	15,923,804	-	15,923,804	9,135,484	-	15,923,804	9,135,484	-
法人	農業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	林業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	水産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	製造業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	鉱業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	建設・不動産業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	電気・ガス・熱供給・水道業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	運輸・通信業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	金融・保険業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	卸売・小売・飲食・サービス業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	日本国政府・地方公共団体	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上記以外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
個人	19,165,215	15,923,804	-	19,165,215	15,923,804	-	15,923,804	9,135,484	-	15,923,804	9,135,484	-
業種別計	19,165,215	15,923,804	-	19,165,215	15,923,804	-	15,923,804	9,135,484	-	15,923,804	9,135,484	-

(注)貸出金償却額は個別貸倒引当金の目的使用による取崩額との相殺前の金額を記載しております。

信用リスク削減効果勘案後の残高及びリスク・ウエイト1250%を適用する残高

(単位:円)

		令和3年度			令和4年度		
		格付あり	格付なし	計	格付あり	格付なし	計
信用 リ 勘 ス ク 後 削 減 高 効 果	リスク・ウエイト0%	-	1,974,397,471	1,974,397,471	-	2,384,144,115	2,384,144,115
	リスク・ウエイト2%	-	-	-	-	-	-
	リスク・ウエイト4%	-	-	-	-	-	-
	リスク・ウエイト10%	-	2,623,015,199	2,623,015,199	-	2,577,174,816	2,577,174,816
	リスク・ウエイト20%	-	21,997,154,027	21,997,154,027	-	23,411,762,449	23,411,762,449
	リスク・ウエイト35%	-	2,320,952	2,320,952	-	558,538	558,538
	リスク・ウエイト50%	-	17,298,268	17,298,268	-	9,857,256	9,857,256
	リスク・ウエイト75%	-	26,304,741	26,304,741	-	22,080,065	22,080,065
	リスク・ウエイト100%	-	2,759,797,123	2,759,797,123	-	2,941,579,555	2,941,579,555
	リスク・ウエイト150%	-	10,607,908	10,607,908	-	8,776,443	8,776,443
	リスク・ウエイト250%	-	591,094,757	591,094,757	-	617,791,939	617,791,939
	その他	-	-	-	-	-	-
リスク・ウエイト1250%		-	-	-	-	-	-
計		-	30,001,990,446	30,001,990,446	-	31,973,725,176	31,973,725,176

(注)

- 信用リスクに関するエクスポージャーの残高には、資産(自己資本控除となるもの、リスク・ウエイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに該当するもの、証券化エクスポージャーに該当するものを除く)並びにオフ・バランス取引及び派生商品取引の与信相当額を含みます。
- 「格付あり」にはエクスポージャーのリスク・ウエイト判定において格付を使用しているもの、「格付なし」にはエクスポージャーのリスク・ウエイト判定において格付を使用していないものを記載しています。なお、格付は適格格付機関による依頼格付のみ使用しています。
- 経過措置によってリスク・ウエイトを変更したエクスポージャーについては、経過措置適用後のリスク・ウエイトによって集計しています。また、経過措置によってリスク・アセットを算入したものについても集計の対象としています。
- 1250%には、非同時決済取引に係るもの、信用リスク削減手法として用いる保証またはクレジット・デリバティブの免責額に係るもの、重要な出資に係るエクスポージャーなどリスク・ウエイト1250%を適用したエクスポージャーがあります。

信用リスク削減手法に関する事項

信用リスク削減手法に関するリスク管理の方針及び手続の概要

「信用リスク削減手法」とは、自己資本比率算出における信用リスク・アセット額の算出において、エクスポージャーに対して一定の要件を満たす担保や保証等が設定されている場合に、エクスポージャーのリスク・ウエイトに代えて、担保や保証人に対するリスク・ウエイトを適用するなど信用リスク・アセット額を軽減する方法です。

当JAでは、信用リスク削減手法を「自己資本比率算出要領」にて定めています。

信用リスク削減手法として、「適格金融資産担保」、「保証」、「貸出金と自組合貯金の相殺」を適用しています。

適格金融資産担保付取引とは、エクスポージャーの信用リスクの全部または一部が、取引相手または取引相手のために第三者が提供する適格金融資産担保によって削減されている取引をいいます。当JAでは、適格金融資産担保取引について信用リスク削減手法の簡便手法を用いています。

保証については、被保証債権の債務者よりも低いリスク・ウエイトが適用される中央政府等、我が国の地方公共団体、地方公共団体金融機構、我が国の政府関係機関、外国の中央政府以外の公共部門、国際開発銀行、及び金融機関または第一種金融商品取引業者、これら以外の主体で長期格付を付与しているものを適格保証人とし、エクスポージャーのうち適格保証人に保証された被保証部分について、被保証債権のリスク・ウエイトに代えて、保証人のリスク・ウエイトを適用しています。

ただし、証券化エクスポージャーについては、これら以外の主体で保証提供時に長期格付がA-またはA3以上で、算定基準日に長期格付がBBB-またはBaa3以上の格付を付与しているものを適格保証人とし、エクスポージャーのうち適格保証人に保証された被保証部分について、被保証債権のリスク・ウエイトに代えて、保証人のリスク・ウエイトを適用しています。

貸出金と自組合貯金の相殺については、①取引相手の債務超過、破産手続開始の決定その他これらに類する事由にかかわらず、貸出金と自組合貯金の相殺が法的に有効であることを示す十分な根拠を有していること、②同一の取引相手との間で相殺契約下にある貸出金と自組合貯金をいずれの時点においても特定することができること、③自組合貯金が継続されないリスクが監視及び管理されていること、④貸出金と自組合貯金の相殺後の額が、監視および管理されていること、の条件をすべて満たす場合に、相殺契約下にある貸出金と自組合貯金の相殺後の額を信用リスク削減手法適用後のエクスポージャー額としています。

担保に関する評価及び管理方針は、一定のルールのもと定期的に担保確認及び評価の見直しを行っています。なお、主要な担保の種類は自組合貯金です。

信用リスク削減手法が適用されたエクスポージャーの額

(単位:円)

	令和3年度			令和4年度		
	適格金融資産担保	保証	クレジット・デリバティブ	適格金融資産担保	保証	クレジット・デリバティブ
地方公共団体金融機構向け	-	-	-	-	-	-
我が国の政府関係機関向け	-	-	-	-	-	-
地方三公社向け	-	-	-	-	-	-
金融機関及び第一種金融商品取引業者向け	-	-	-	-	-	-
法人等向け	4,704,647	-	-	3,103,363	-	-
中小企業等向け及び個人向け	5,761,621	7,095,342	-	3,640,641	4,181,993	-
抵当権付住宅ローン	-	-	-	-	-	-
不動産取得等事業向け	-	-	-	-	-	-
三月以上延滞等	-	-	-	-	-	-
証券化	-	-	-	-	-	-
中央清算機関関連	-	-	-	-	-	-
上記以外	1,626,503	-	-	1,229,488	-	-
合計	12,092,771	7,095,342	-	7,973,492	4,181,993	-

(注)

1. 「エクスポージャー」とは、リスクにさらされている資産(オフ・バランスを含む)のことをいい、主なものとしては貸出金や有価証券等が該当します。
2. 「三月以上延滞等」とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上延滞している債務者に係るエクスポージャー及び「金融機関向け及び第一種金融商品取引業者向け」、「法人等向け」等においてリスク・ウエイトが150%になったエクスポージャーのことです。
3. 「証券化(証券化エクスポージャー)」とは、原資産にかかる信用リスクを優先劣後構造のある二以上のエクスポージャーに階層化し、その一部または全部を第三者に移転する性質を有する取引にかかるエクスポージャーのことです。
4. 「上記以外」には、現金・外国の中央政府及び中央銀行向け・国際決済銀行等向け・外国の中央政府等以外の公共部門向け・国際開発銀行向け・取立未済手形・未決済取引・その他の資産(固定資産等)が含まれます。
5. 「クレジット・デリバティブ」とは、第三者(参照組織)の信用リスクを対象に、信用リスクを回避したい者(プロテクションの買い手)と信用リスクを取得したい者(プロテクションの売り手)との間で契約を結び、参照組織に信用事由(延滞・破産など)が発生した場合にプロテクションの買い手が売り手から契約に基づく一定金額を受領する取引をいいます。

派生商品取引及び長期決済期間取引の 取引相手のリスクに関する事項

該当する取引はございません。

証券化エクスポージャーに関する事項

該当する取引はございません。

出資その他これに類するエクスポージャーに関する事項

出資その他これに類するエクスポージャーに関するリスク管理の方針及び手続の概要

「出資その他これに類するエクスポージャー」とは、主に貸借対照表上の有価証券勘定及び外部出資勘定の株式又は出資として計上されているものであり、当JAにおいては、これらを①その他有価証券、②系統および系統外出資に区分して管理しています。

①その他の有価証券については中長期的な運用目的で保有するものであり、適切な市場リスクの把握およびコントロールに努めています。具体的には、市場動向や経済見通しなどの投資環境分析及びポートフォリオの状況やALMなどを考慮し、理事会で運用方針を定めるとともに経営層で構成するALM委員会を定期的に開催して、日常的な情報交換及び意思決定を行っています。運用部門は理事会で決定した運用方針及びALM委員会で決定された取引方針などに基づき、リスクヘッジを行っています。運用部門が行った取引については企画管理部門が適切な執行を行っているかどうかチェックし定期的にリスク量の測定を行い経営層に報告しています。

②系統出資については、会員としての総会等への参画を通じた経営概況の監督に加え、日常的な協議を通じた連合会等の財務健全化を求めており、系統外出資についても同様の対応を行っています。

なお、これらの出資その他これに類するエクスポージャーの評価等については、②系統および系統外出資については、取得原価を記載し、毀損の状況に応じて外部出資等損失引当金を設定しています。また、評価等重要な会計方針の変更等があれば、注記表にその旨記載することとしています。

出資その他これに類するエクスポージャーの貸借対照表計上額及び時価

(単位:円)

	令和3年度		令和4年度	
	貸借対照表計上額	時価評価額	貸借対照表計上額	時価評価額
上場	—	—	—	—
非上場	685,731,839	685,731,839	725,731,839	725,731,839
合計	685,731,839	685,731,839	725,731,839	725,731,839

(注)「時価評価額」は、時価のあるものは時価、時価のないものは貸借対照表計上額の合計額です。

出資その他これに類するエクスポージャーの売却及び償却に伴う損益

該当する取引はございません。

貸借対照表で認識され、損益計算書で認識されない評価損益の額
(保有目的区分をその他有価証券としている株式・出資の評価損益等)

該当する取引はございません。

貸借対照表及び損益計算書で認識されない評価損益の額
(子会社・関連会社株式の評価損益等)

該当する取引はございません。

リスク・ウェイトのみなし計算が適用されるエクスポージャーに関する事項

(単位:円)

	令和3年度	令和4年度
ルックスルー方式を適用するエクスポージャー	-	-
マンデート方式を適用するエクスポージャー	-	-
蓋然性方式(250%)を適用するエクスポージャー	-	-
蓋然性方式(400%)を適用するエクスポージャー	-	-
フォールバック方式(1250%)を適用するエクスポージャー	-	-

金利リスクに関する事項

金利リスクの算定手法の概要

金利リスクとは、金利変動に伴い損失を被るリスクで、資産と負債の金利又は期間のミスマッチが存在する中で金利が変動することにより、利益が減少ないし損失を被るリスクをいいます。

当JAでは、金利リスク量を計算する際の基本的な事項を「金利リスク量計算要領」に、またリスク情報の管理・報告にかかる事項を「余裕金運用等にかかるリスク管理手続」に定め、適切なリスクコントロールに努めています。

具体的な金利リスクの算定方法、管理方針および手続については以下のとおりです。

◇リスク管理の方針および手続の概要

・リスク管理および計測の対象とする金利リスクの考え方および範囲に関する説明

当JAでは、金利リスクを重要なリスクの一つとして認識し、適切な管理体制のもとで他の市場リスクと一体的に管理をしています。金利リスクのうち銀行勘定の金利リスク(IRRB)については、個別の管理指標の設定やモニタリング体制の整備などにより厳正な管理に努めています。

・リスク管理およびリスクの削減の方針に関する説明

当JAは、リスク管理委員会のもと、自己資本に対するIRRBの比率の管理や収支シミュレーションの分析などを行いリスク削減に努めています。

・金利リスク計測の頻度

毎月末を基準日として、月次でIRRBを計測しています。

・ヘッジ等金利リスクの削減手法に関する説明

該当ありません。

◇金利リスクの算定手法の概要

当JAでは、経済価値ベースの金利リスク量(Δ EVE)については、金利感応ポジションにかかる基準日時点のイールドカーブに基づき計算されたネット現在価値と、標準的な金利ショックを与えたイールドカーブに基づき計算されたネット現在価値の差により算出しており、金利ショックの幅は、上方パラレルシフト、下方パラレルシフト、スティーブ化の3シナリオによる金利ショック(通貨ごとに異なるショック幅)を適用しております。

・流動性貯金に割り当てられた金利改定の平均満期

流動性貯金に割り当てられた金利改定の平均満期は1.25年です。

・流動性貯金に割り当てられた最長の金利改定満期

流動性に割り当てられた最長の金利改定満期は5年です。

・流動性貯金への満期の割り当て方法(コア貯金モデル等)およびその前提

流動性貯金への満期の割り当て方法については、金融庁が定める保守的な前提を採用しています。

・固定金利貸出の期限前返済や定期貯金の早期解約に関する前提

固定金利貸出の期限前返済や定期貯金の早期解約について考慮していません。

・複数の通貨の集計方法およびその前提

通貨別に算出した金利リスクの正値を合算しています。通貨間の相関等は考慮していません。

・スプレッドに関する前提(計算にあたって割引金利やキャッシュ・フローに含めるかどうか)

一定の前提を置いたスプレッドを考慮してキャッシュ・フローを展開しています。

なお、当該スプレッドは金利変動ショックの設定上は不変としています。

・内部モデルの使用等、 Δ EVEおよび Δ NIIに重大な影響を及ぼすその他の前提

内部モデルは使用していません。

・前事業年度末の開示からの変動に関する説明

該当ありません。

・計測値の解釈や重要性に関するその他の説明

該当ありません。

◇ Δ EVEおよび Δ NII以外の金利リスクを計測している場合における、当該金利リスクに関する事項
該当ありません。

金利リスクに関する事項

(単位:百万円)

IRRBB:金利リスク					
		△EVE		△NII	
		当期末	前期末	当期末	前期末
1	上方平行シフト	59	72	4	1
2	下方平行シフト	-	-	4	-
3	スティープ化	79	83	/	/
4	フラット化	-	-	/	/
5	短期金利上昇	-	-	/	/
6	短期金利低下	19	-	/	/
7	最大値	79	83	4	1
/	/	当期末		前期末	
8	自己資本の額	3,347		3,047	

JA 茨城旭村

JA 茨城旭村 本店

茨城県銚田市造谷 1379 番地の18

TEL. 0291-37-0111(代) FAX. 0291-37-0116

営農情報支援センター

銚田市造谷 1377 番地の1

TEL. 0291-37-1661 FAX. 0291-37-1663

青果物管理センター

銚田市造谷 1372 番地の9

TEL. 0291-34-4488 FAX. 0291-34-4649

資材センター

銚田市造谷 1377 番地の1

TEL. 0291-37-1414 FAX. 0291-37-3523

農機サービスセンター

銚田市造谷 1071 番地

TEL. 0291-37-4545 FAX. 0291-37-0115

サングリーン旭 (特産物直売所)

銚田市縦山 602 番地の6

TEL. 0291-37-4147 FAX. 0291-37-4354

JA 祭典ほこたホール

銚田市柏熊 1001 番地の63

TEL. 0291-34-0983 FAX. 0291-32-3420

HP <https://www.ja-ibarakiasahi.or.jp>